

インベスターズガイド

2022年12月版

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.

1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 短期業績
4. 中期計画
5. サステナビリティ関連
6. 補足資料

1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 短期業績
4. 中期計画
5. サステナビリティ関連
6. 補足資料

最新最適な医療機器を通じて
健康社会の実現に貢献する

連結売上高
(2022/3期)

515億円

営業利益率
(2022/3期)

19.4%

売上高に占める
自社製品比率
(2022/3期)

52.4%

AFアブレーション症例数
伸び率*1

CAGR 10%

国内営業拠点数
(2022/3末)

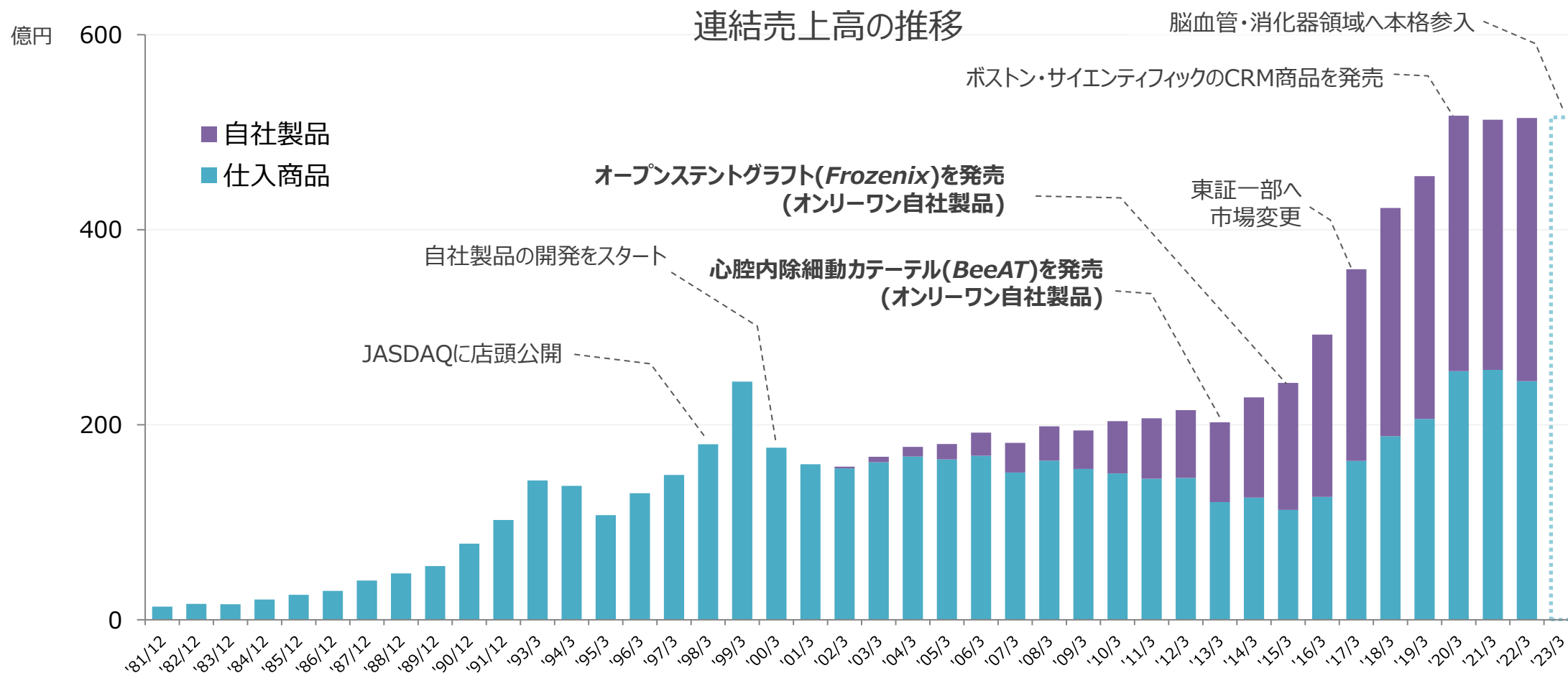
48拠点

連結従業員数
(2022/3末)

1,205名

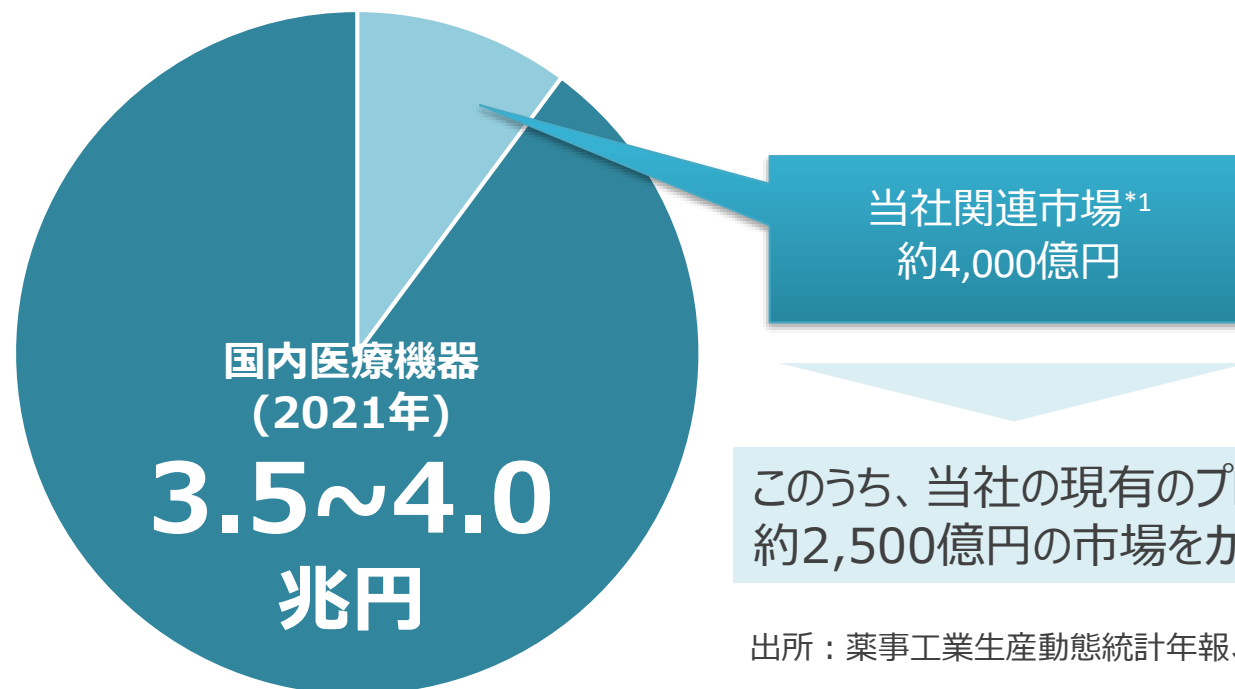
*1 2017年～2021年のAF(心房細動)のアブレーション症例数の伸び率(自社推計)

✓ オンリーワン自社製品の発売で、過去10年で売上高CAGR8% (営業利益CAGR24%)を達成



1. 日本ライフラインとは
- 2. ビジネスモデル**
3. 短期業績
4. 中期計画
5. サステナビリティ関連
6. 補足資料

- ✓ 国内医療機器の市場は、**今後もCARG 3～4 %程度の安定成長を見込む。**



出所：薬事工業生産動態統計年報、矢野経済研究所、R&Dを元に当社推定

とりまく
外部環境

社会保障
改革

技術革新
AI/ロボティクス/
ヘルステック

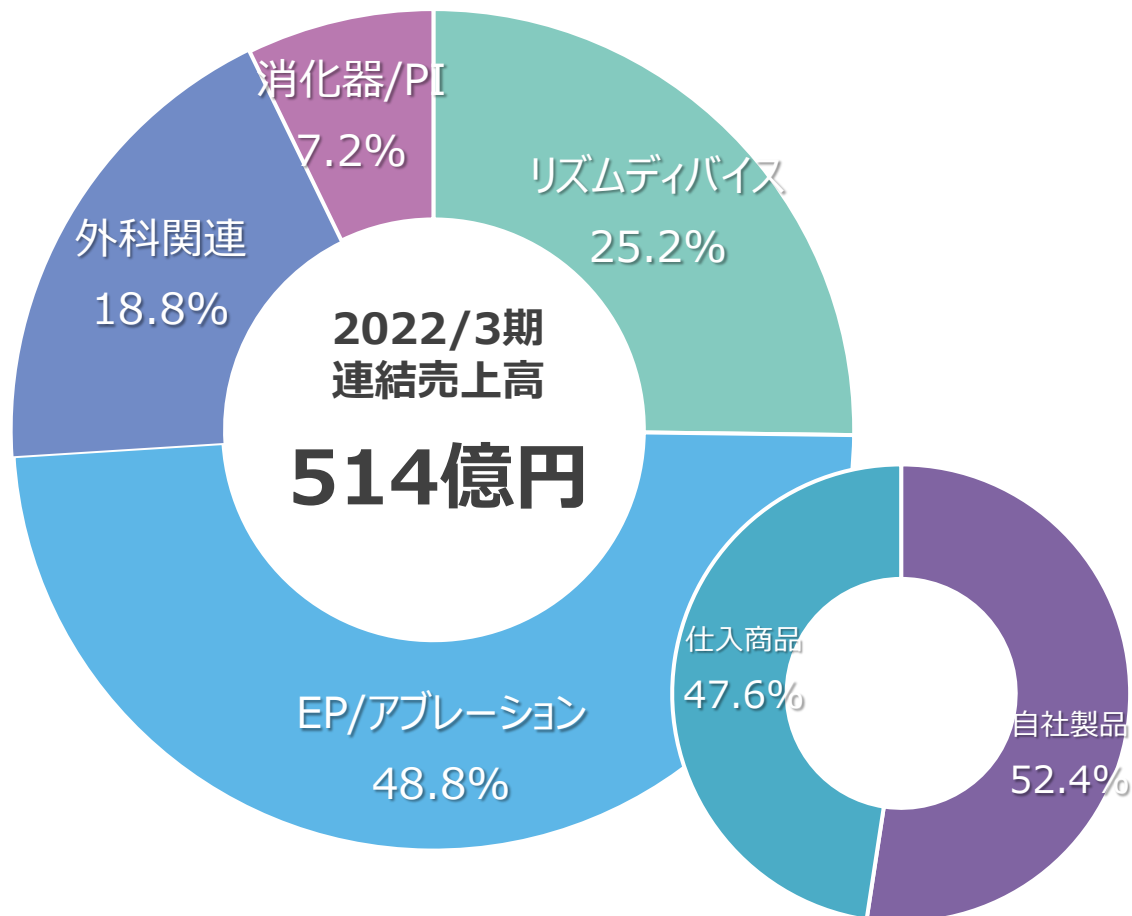
超高齢社会の
進展

医療現場の
働き方改革

新型コロナ
ウイルス

*1 カテーテル・チューブ・インターベンショナルラジオロジーの市場

- ✓ メインの疾患領域は**心臓血管領域**であり、4つの品目区分に分類
- ✓ 今後は、**消化器領域**^{*1}と**脳血管領域**^{*2}にも本格参入し、疾患領域を強化・拡充



リズムデバイス	✓ 不整脈を治療する体内植込み型の医療機器 ✓ 自社製品比率0% (BSJ社^{*3}との長期独占販売契約)
EP/アブレーション	✓ 不整脈の検査や治療を行う、使い捨ての電極付カテーテルなどの医療機器 ✓ 自社製品比率80%
外科関連	✓ 大動脈瘤などを治療するための、人工血管をはじめとする医療機器 ✓ 自社製品比率60% ✓ 脳血管領域に新規参入（仕入商品）
消化器/PI ^{*4}	✓ 消化器疾患を治療する医療機器 ✓ 心筋梗塞などの疾患を治療する医療機器 ✓ 自社製品比率40%^{*5} ✓ 胆膵内視鏡分野に新規参入（自社製品）

*1 品目区分では、「消化器/PI」に該当

*2 品目区分では、「外科関連」に該当

*3 Boston Scientific Japan社（Boston Scientific Corporation（米）の日本子会社）

*4 PI = Percutaneous Intervention（経皮的インターベンション）心筋梗塞などの虚血性心疾患を、カテーテルを用いて低侵襲に治療する方法。ガイドワイヤー、バルーンカテーテル、薬剤溶出型冠動脈ステントなどを含む

*5 PIは仕入商品を多く含むため、消化器/PI全体では自社製品比率40%。消化器のみでは自社製品比率100%。PIは今後縮小の傾向

✓ 不整脈を治療する体内植込み型の医療機器

ペースメーカー関連

心臓ペースメーカー

商品名：Accolade（Boston Scientific社製）



心臓の拍動が遅くなる不整脈(徐脈)に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

保険償還価格*1

シングルチャンバ 454,000円

デュアルチャンバ 593,000円

CRT-P（両心室心臓ペースメーカー）

商品名：Visionist X4（Boston Scientific社製）



重症心不全に対して、心臓の左右両方の心室に電気刺激を与えることで心臓の同期不全を整えポンプ機能を改善します。

保険償還価格

1,290,000円

I C D 関連

T-ICD（経静脈植込型除細動器）

商品名：Resonate（Boston Scientific社製）



心臓の拍動が早まる不整脈(頻脈)のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与え、拍動を正常な状態に戻します。

保険償還価格

シングルチャンバ 2,730,000円

デュアルチャンバ 2,820,000円

S-ICD（完全皮下植込型除細動器）

商品名：Emblem MRI（Boston Scientific社製）



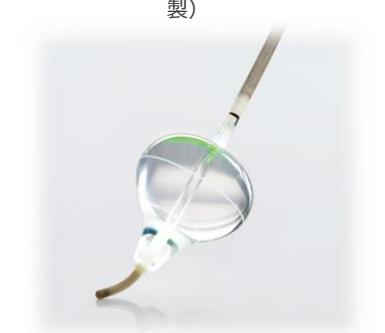
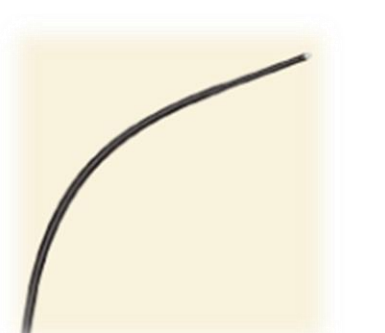
T-ICDは静脈を介し心臓内にリードを留置しますが、S-ICDは全ての機器を皮下に植込み血管内や心臓への異物留置がありません。

保険償還価格

3,120,000円

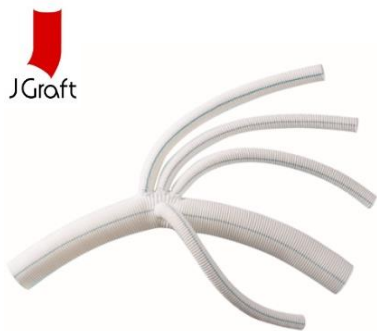
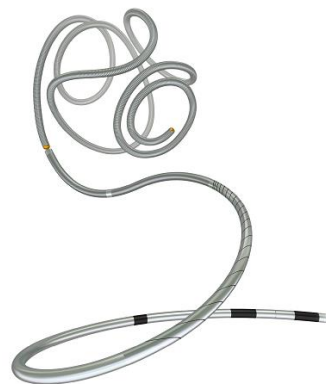
*1 保険償還価格は2022年4月1日現在

✓ 不整脈の検査や治療を行う、使い捨ての電極付カテーテルなどの医療機器

E P カテーテル関連		A B L カテーテル関連		その他
EP(電気生理用)カテーテル 製品名：EP Star, Libero, Snake, Esophastar (自社製品)  不整脈の診断や治療方法の適応を判断する検査に用います。カテーテル先端の電極で、心臓内電位を測定したり、不整脈を誘発させて原因を特定します。 保険償還価格*1 標準型(電極数3~5)46,800円 温度センサ付(エソファスター)85,400円	心腔内除細動カテーテル 製品名：BeeAT (自社製品)  アブレーション治療時に発生する心房細動に対し、心腔内で除細動を行うことで、低侵襲に心房細動を停止させます。またEPカテーテルとしての診断機能も合わせ持っています。 保険償還価格 214,000円	アブレーションカテーテル 製品名：Ablaze (自社製品)  頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流で焼き切ることで治療します。 保険償還価格 通常型 117,000円	内視鏡レーザーアブレーションカテーテル 商品名：HeartLight X3 (Cardio Focus社製)  バルーン内部からレーザーを照射し、頻脈の原因となる部位を焼き切り治療します。カテーテル内部の内視鏡で、正確な留置・焼灼が可能です。 保険償還価格 505,000円	高周波心房中隔穿刺針 商品名：RF Needle (Baylis Medical社製)  アブレーション治療などの際に、左右の心房の間にある壁（心房中隔）に、カテーテルを通すための穴を高周波により開ける際に使用します。 保険償還価格 54,100円

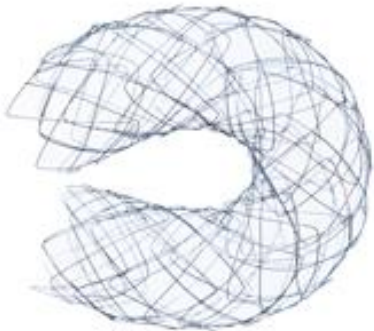
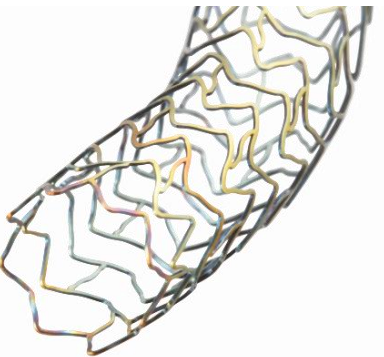
*1 保険償還価格は2022年4月1日現在

✓ 本来の機能が失われた血管を人工の器官に置き換え、治療するための医療機器

人工血管関連			その他
人工血管 製品名：J Graft（自社製品）  開胸手術により動脈瘤などで痛んだ血管を切り取り、人工血管に置き換え治療します。 保険償還価格*1 分岐なし（ストレート） 117,000円 1分岐（T字） 179,000円 2分岐以上（4分岐） 245,000円	（腹部用）ステントグラフト 商品名：AFX2, Alto（Endologix社製）  外科手術を行うことなく、足の付け根の血管からカテーテルを通じて、治療部位に留置し大動脈瘤を治療します。 保険償還価格 標準型(AFX) 1,320,000円 ポリマー充填型(Alto) 1,430,000円	オープンステントグラフト 製品名：Frozenix（自社製品）  大動脈に挿入し拡張することにより血管に固定します。本製品を用いることで、従来2回の外科手術が必要だった症例の手術を1回で済ませることができます。 保険償還価格 1,110,000円	塞栓用コイル 商品名：Avenir（Wallaby Medical社製）  脳動脈瘤内に塞栓用コイルを留置することで血液の流入を遮断し、瘤の破裂(くも膜下出血)を防ぎます。 保険償還価格 95,600円

*1 保険償還価格は2022年4月1日現在

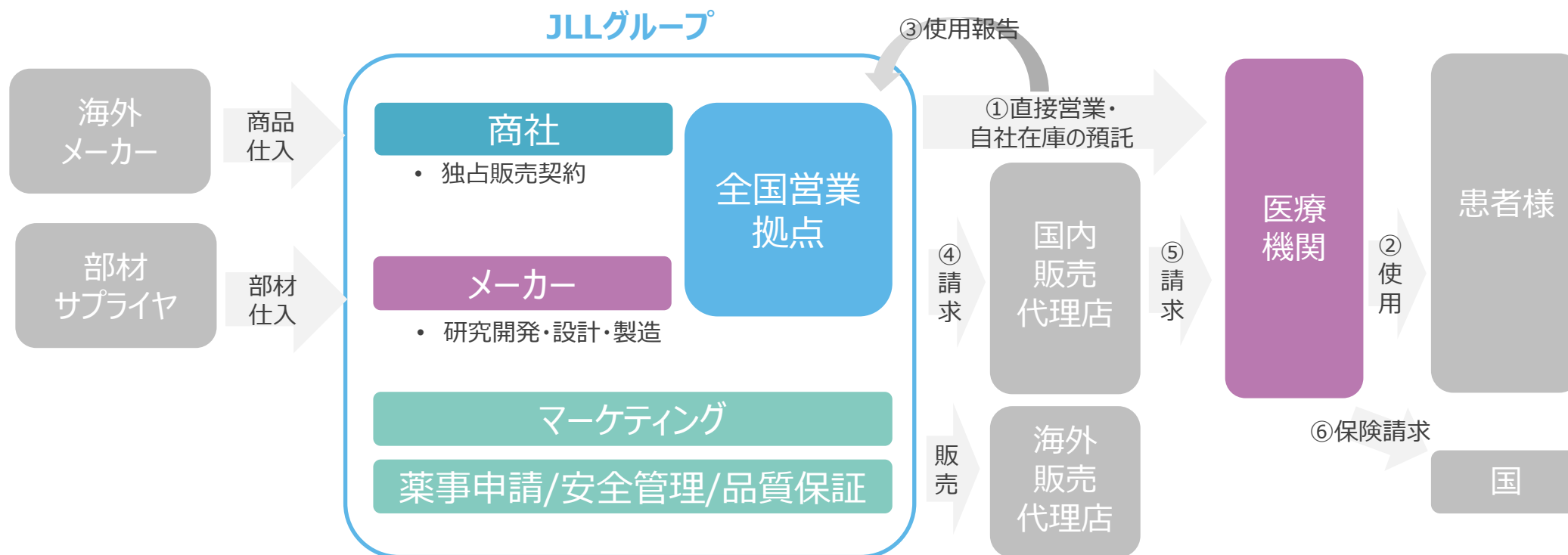
- ✓ 消化器：肝臓・大腸・胆膵などの消化器疾患を治療する医療機器
- ✓ PI関連：冠動脈の詰まりによって発生する心筋梗塞などの疾患を治療する医療機器

消化器関連			PI 関連
大腸用ステント 製品名：Jentily（自社製品）  癌により閉塞した大腸を押し広げるために用います。細いガイドワイヤーで閉塞部を通過させた後、これに沿ってステントを展開します。 保険償還価格*1 216,000円	肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針 製品名：arfa（自社製品）  超音波(エコー)やCTで観察しながら針状の電極を経皮的に肝癌の病変組織へ挿入し、電極周囲にラジオ波による熱を発生させ病変を焼灼し治療します。 保険償還価格 製品自体には価格はなく、特定の手技料に一体として包括的に評価される（A2区分:特定包括）	胆道鏡システム 製品名：DRES（自社製品）  十二指腸内視鏡を介して胆管に挿入し、観察・処置を行うための細径の内視鏡。ERCP*2で診断が困難な症例や結石等の処置に使用します。 保険償還価格 製品自体には価格はなく、手技料の加算として評価される（A2区分:特定包括）	薬剤溶出型冠動脈ステント 商品名：Orsiro（Biotronik社製）  血管の詰まった部分を風船(バルーン)で拡張させた後に留置し、再び詰まるのを防ぎます。また塗布された薬剤も再発防止に効果があります。 保険償還価格 136,000円

*1 保険償還価格は2022年4月1日現在

*2 Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography (内視鏡的逆行性胆膵管造影)

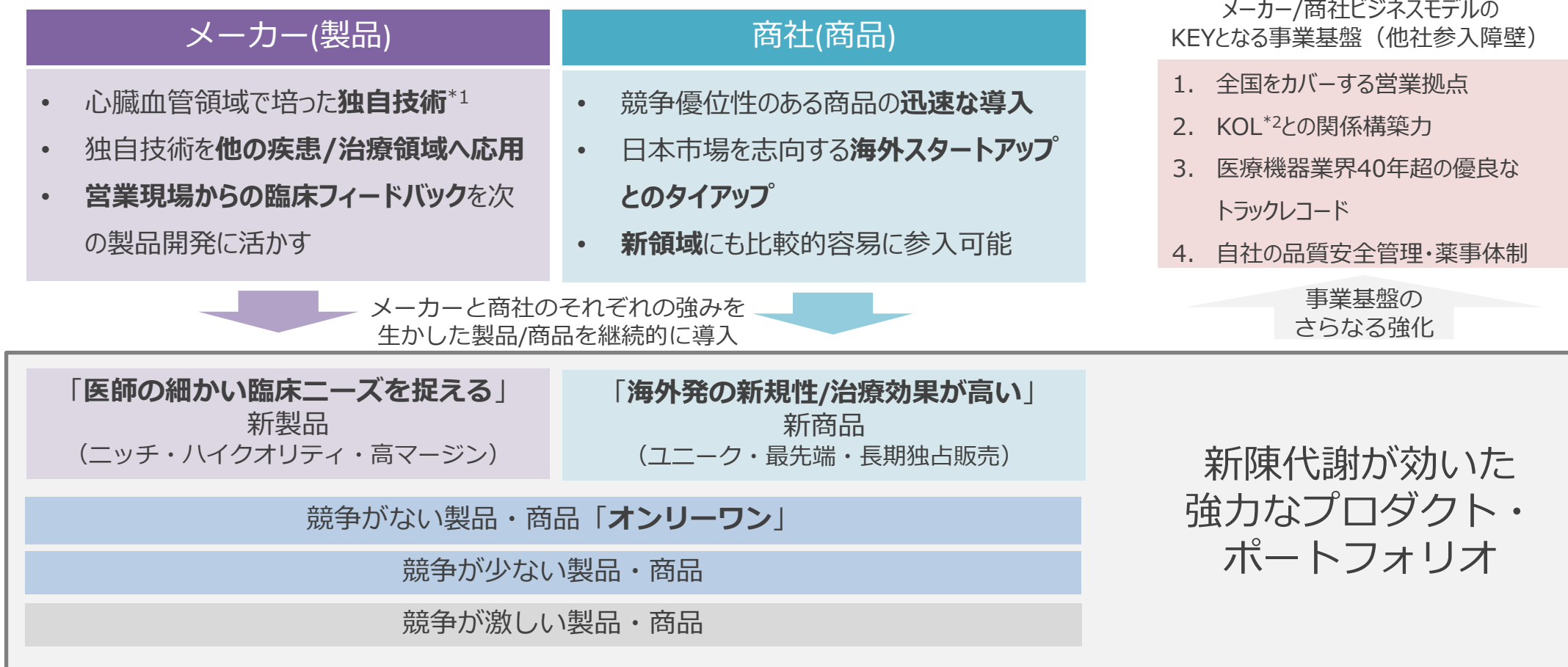
- ✓ 商社とメーカーのハイブリッド型ビジネスモデル
- ✓ 全国規模の販売力と医療機器を市場流通させるために必要な薬事機能などを自社で保有
- ✓ 当社セールスは、エンドユーザである**医療機関(医師)に直接営業**
- ✓ 医療機関に滅菌期限(使用期限)のある**自社在庫を預託***1、手術での使用で売上を認識



*1 預託販売は当社の主要な販売形態です。医療機関や代理店が買い取りすることもあります。輸出についても、海外代理店が当社の在庫を買い取ります。

ビジネスモデルの競争優位性

- ✓ メーカー/商社ビジネスモデルは、**事業環境の変化への対応力に優れる**
- ✓ プロダクト・ポートフォリオを**柔軟かつ迅速にアップデート**し続けることが可能



*1 高機能シャフト技術、アブレーション（焼灼）技術、ステント編み込み技術 etc.

*2 Key Opinion Leader

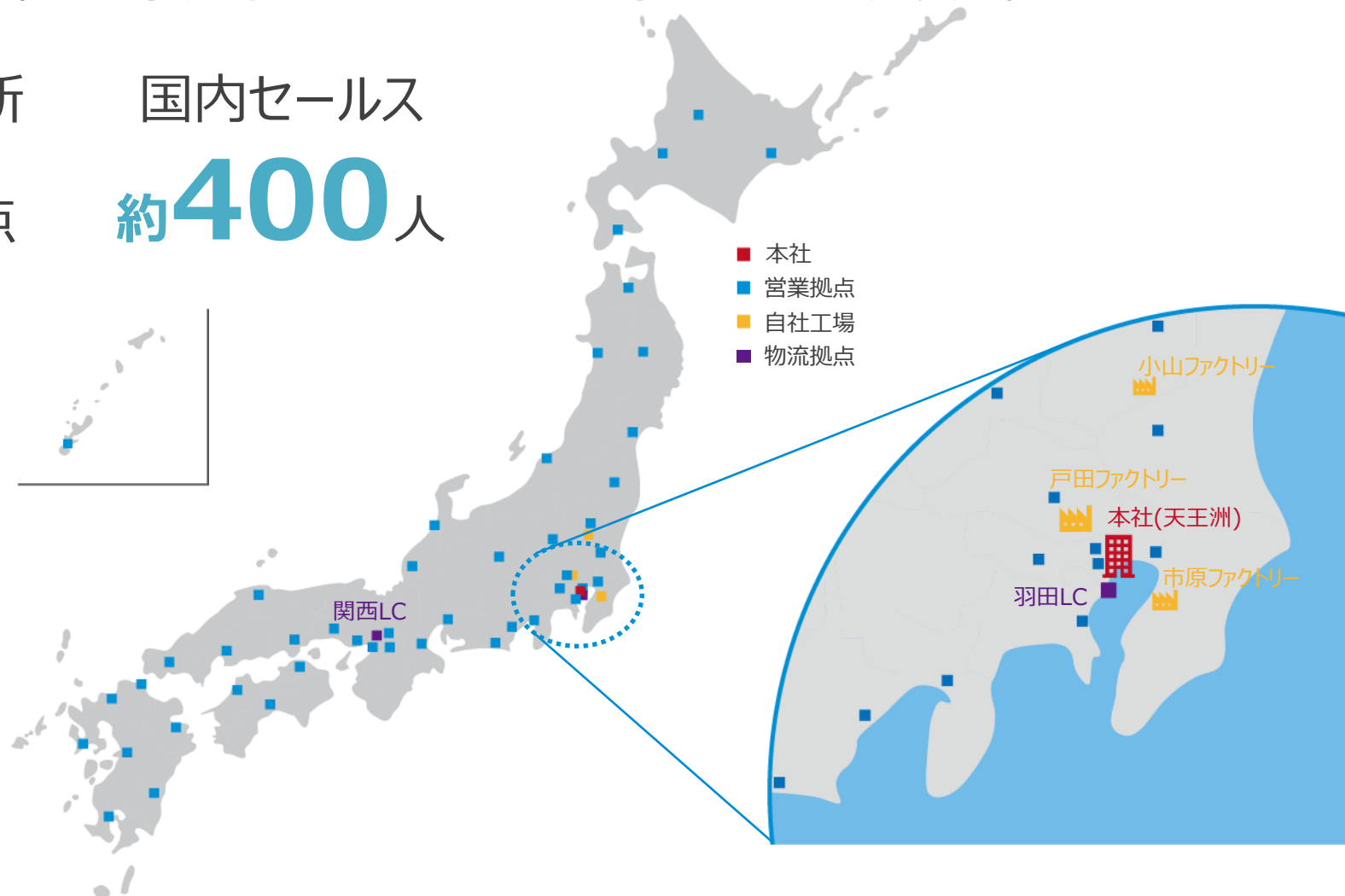
- ✓ 国内48か所の営業拠点を持ち、全国の主要な医療機関をカバー
- ✓ 地域密着型の営業で医療現場からアンメットニーズを拾い上げ、次の製品開発に活かす

国内営業所

48 拠点

国内セールス

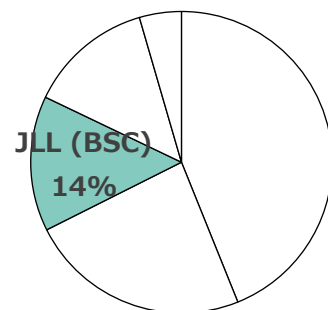
約**400** 人



- ✓ リズムデバイス **BSC社^{*1}のCRM商品をフルラインナップで取扱い、No.2ポジションをねらう**
- ✓ EP/アブレーション **外資系企業の圧倒的な存在感のなか、EPカテーテルはトップシェア**

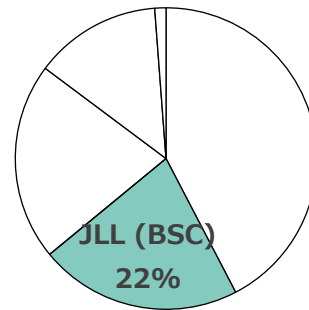
リズムデバイス

ペースメーカー等^{*2} (徐脈)



当社順位^{*6}：3位
市場規模^{*6}：430億円
市場成長率^{*6}：+2~3%

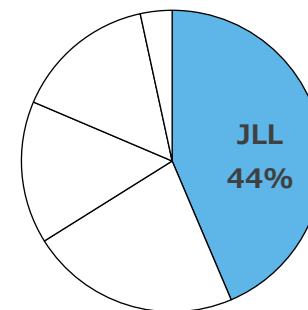
ICD等^{*3} (頻脈)



当社順位：2位
市場規模：320億円
市場成長率：+2~3%

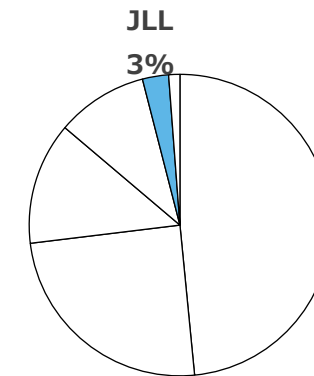
EP/アブレーション

EPカテーテル^{*4} (検査用)



当社順位：1位
市場規模：400億円
市場成長率：+5~7%

ABLカテーテル^{*5} (治療用)



当社順位：5位
市場規模：400億円
市場成長率：+4~6%

*1 Boston Scientific Corporation (米)

*2 CRT-P (両心室心臓ペースメーカー) や徐脈用リードを含む

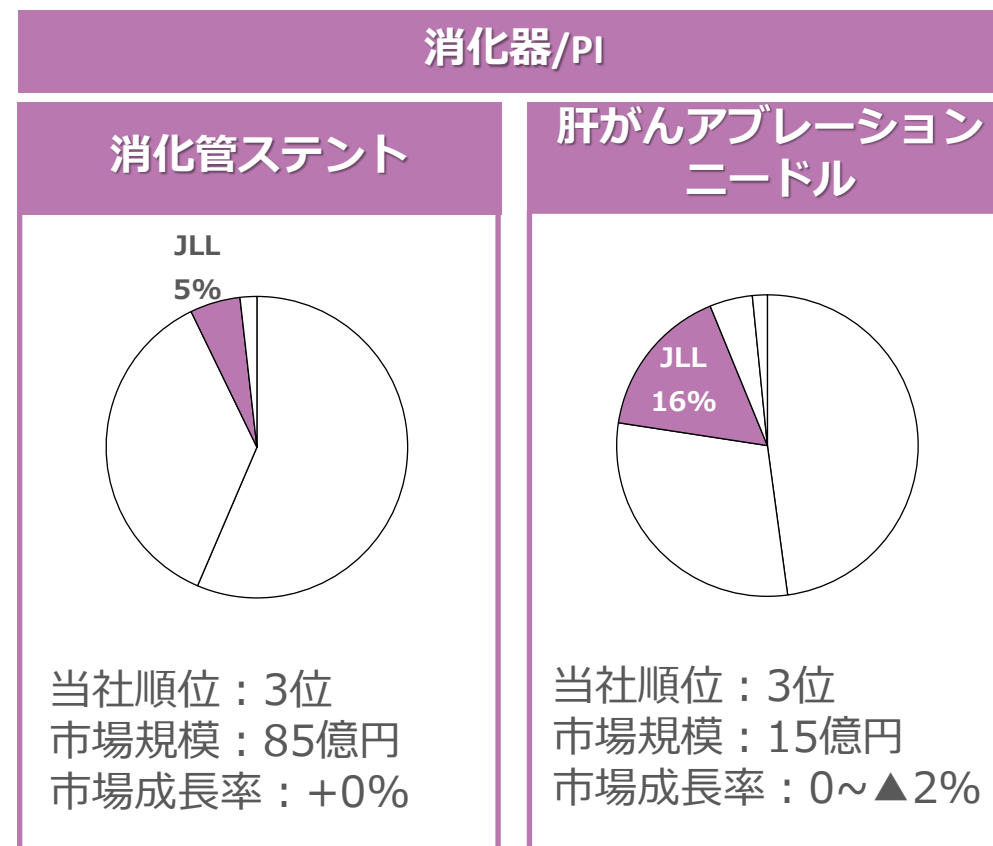
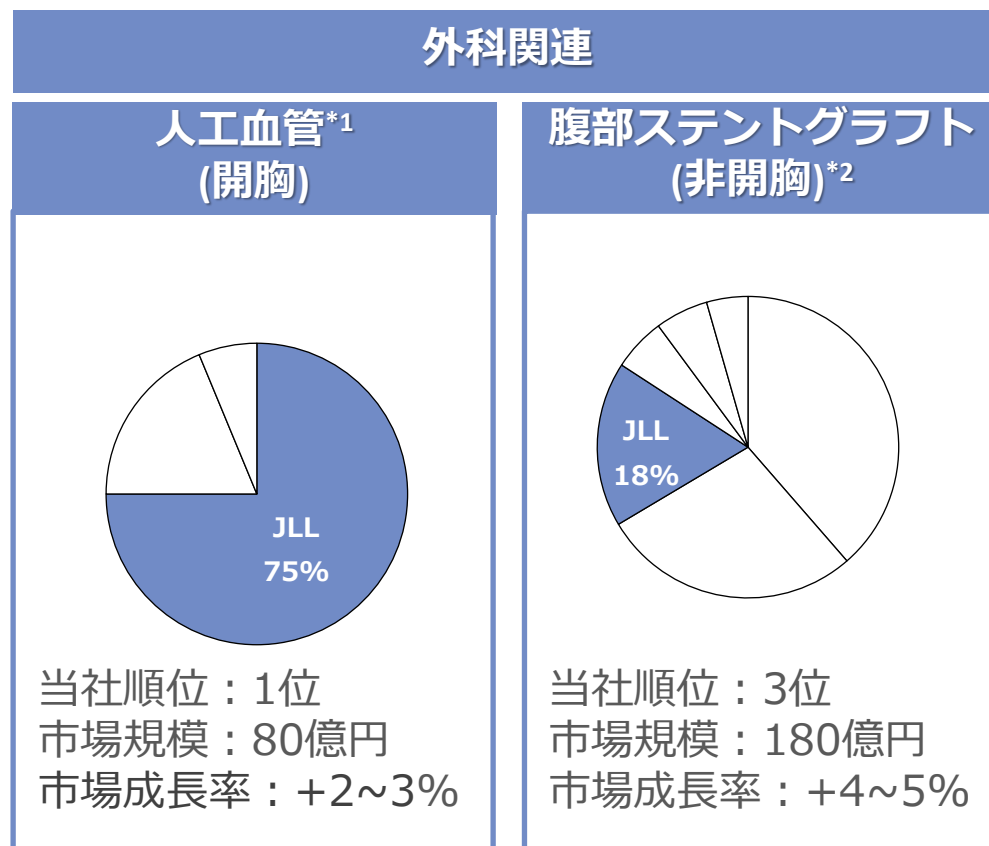
*3 S-ICD (完全皮下植込み型除細動器)、CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカー)、頻脈用リードを含む

*4 心腔内除細動カテーテル (当社オンリーワン製品) や食道温モニタリングカテーテルを含む

*5 バルーンアブレーション (冷凍バルーンやレーザーバルーン) を含む

*6 R&Dや社内調査などを元に当社推定。当社順位、市場規模は2022年の予測値。市場成長率は、今後2~3年程度の金額ベースの成長率(年率)の予想。

- ✓ 外科関連 オンリーワンを含む自社製品のラインナップが市場で評価され、**人工血管はトップシェア**
- ✓ 消化器/PI PIは縮小へ。消化器は、胆膵内視鏡分野へ新規参入し、今後注力



*1 オープンステントグラフト（当社オンリーワン製品）を含む

✓ 当社の事業に関する主なリスクは下記のとおりです。

リスクへの対処・考え方

オンリーワン製品における競合の参入

- ✓ 収益力の高い**オンリーワン製品**の業績貢献度は非常に高く、**連結売上高の約4割を占める**^{*1} (2022/3期)

- ✓ 技術的優位性の確保 (特許・ノウハウなど)
- ✓ 新規性の高い製品の導入

仕入先の被買収

- ✓ 仕入先の海外スタートアップ企業などが買収された場合、**独占販売権を喪失する**可能性あり

- ✓ COC条項^{*2}によるリスクヘッジ

保険償還価格の下落

- ✓ 原則、**2年に1回改定**があり、**価格競争が激しいほど下落幅大**
- ✓ 2022/4改定時は連結売上高で▲4%程度の影響

- ✓ 新規性の高い製品/商品を継続的に導入する

AF^{*3}症例数の伸び鈍化

- ✓ 主力事業のEP/アブレーションの業績は、**AF症例数の増減と強く相関**し、全体PLへの影響大
- ✓ 新型コロナは短期的な症例数減少要因

- ✓ 消化器領域など新領域を強化し、特定の事業への依存度を低減する

*1 対象品目は、心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、オープンステントグラフト「Frozenix」、S-ICD「EMBLEM™ MRI S-ICD System」の3品目

*2 Change of Control条項。契約期間中に買収等により経営権の移動が生じた場合、契約内容に何らかの制限がかかったり、他方の当事者によって契約を解除することができたりする規定

*3 Atrial Fibrillation (心房細動)

1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 短期業績
4. 中期計画
5. サステナビリティ関連
6. 補足資料

損益 ハイライト	売上高		営業利益		当期純利益	
	51,469	前年同期比 +358 (+0.4%)	9,973	前年同期比 ▲393 (▲3.8%)	7,484	前年同期比 +5,483 (+274.1%)
	百万円		百万円		百万円	

✓ 売上高：新型コロナの感染拡大や競争環境の激化により前期並み
 ✓ 営業利益：研究開発費、治験費用、営業関連費用等の増加により減益
 ✓ 当期純利益：前期に特別損失の計上があり、当期は大幅に増益

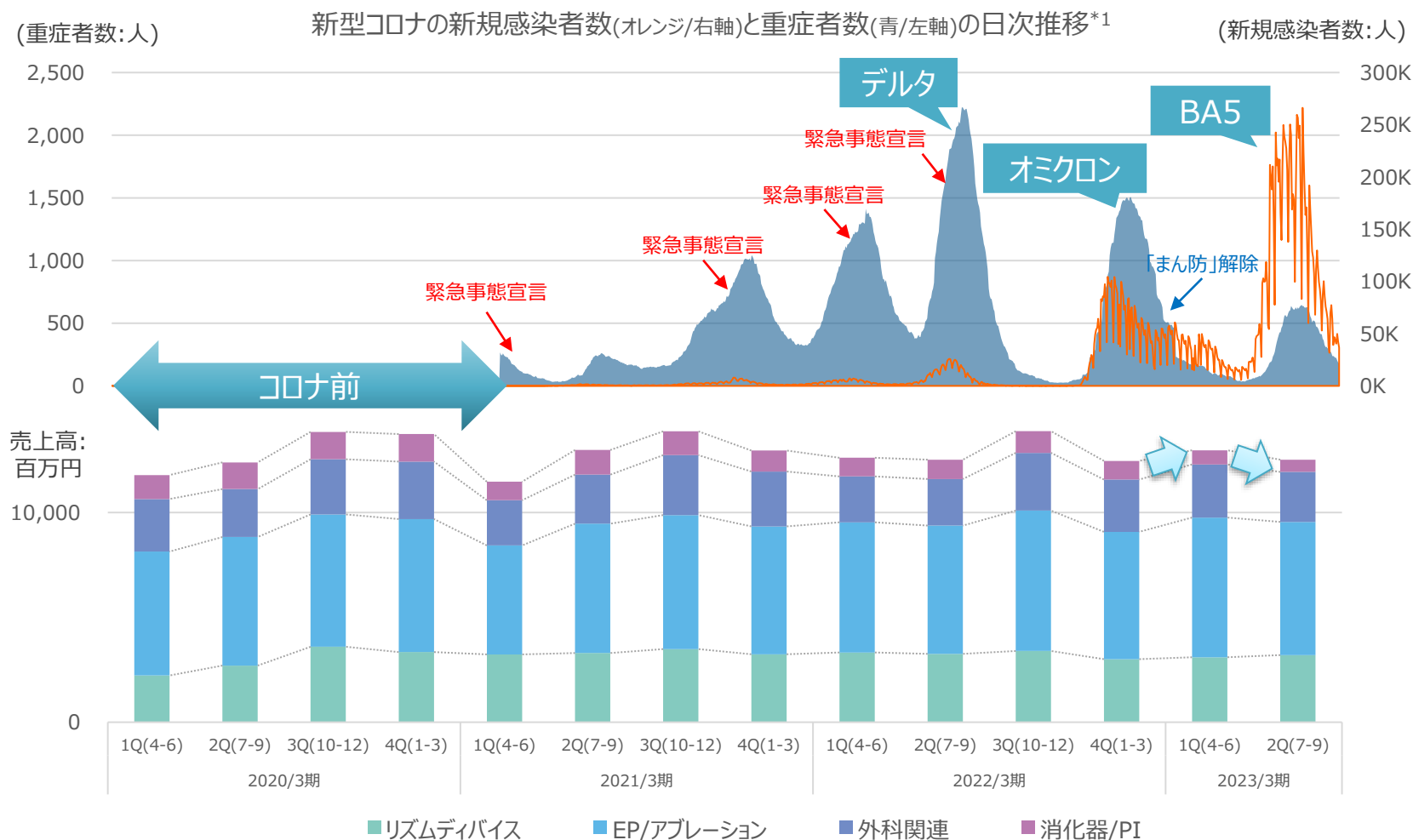
品目別売上高 ハイライト	リズムデバイス 前年同期比 ▲2.0%		EP/アブレーション 前年同期比 +5.2%	
	(－)市場競争激化 (－) S-ICDの停滞		(+) AF症例数の増加 (－) RFニードルの競合参入	
	外科関連 前年同期比 ▲3.1%		消化器/PI 前年同期比 ▲11.2%	
	(－) 血液浄化事業の譲渡		(－) PCI症例数の回復遅れ (－) 前期に販売終了品あり	

損益 ハイライト	売上高		営業利益		当期純利益	
	51,527 百万円	前年同期比 +58 (+0.1%)	10,011 百万円	前年同期比 +37 (+0.4%)	7,274 百万円	前年同期比 ▲210 (▲2.8%)
✓ 売上高：症例数は緩やかな回復を見込むが、保険償還価格の改定の影響が大きく前期並み ✓ 営業利益：販管費の増加を見込むが、自社製品の伸長により売上総利益率が改善し増益 ✓ 当期純利益：前期に繰延税金資産の評価性引当金の減少があったため減益						

品目別売上高 ハイライト	リズムデバイス 前年同期比 ▲3.3%		EP/アブレーション 前年同期比 +6.0%	
	(-) 市場競争激化 (-) 保険償還価格の引き下げ		(+) HeartLight X3が伸長 (-) RFニードルの競合参入	
	外科関連 前年同期比 +3.8%		消化器/PI 前年同期比 ▲36.9%	
	(+) 自社製品の安定的な成長 (+) 脳血管領域への参入		(-) 冠動脈ステントの販売終了 (+) 胆膵関連製品の発売	

✓ 新型コロナの感染状況は、**短期的に当社の業績に強い影響あり**

⇒ 感染状況が悪化すると、医療機関の運営に様々な制約が課されるため、症例数が減少



新型コロナの影響

- ✓ 待機症例（ペースメーカー植込、アブレーションなど含む）の先送りによる症例数の減少
- ✓ 医療機関におけるクラスター発生による、症例ストップ
- ✓ オペ室稼働率の低下(余力確保)
- ✓ 症例の立会規制強化（セールスの営業機会の制限）
- ✓ 患者様の受診控え
- ✓ 海外の指導医が来日不可となることによる製品導入スケジュールの遅れ

*1 厚生労働省のオープンデータを元に当社作成

1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 短期業績
- 4. 中期計画**
5. サステナビリティ関連
6. 補足資料

■ 中期の方針

2025/3期までの5年間の業績目標を達成しつつ、さらにその先の成長を見据えた重点施策を完遂する

■ 業績目標 (KPI)

売上高 CAGR

10%

営業利益 CAGR

15%

自社製品比率

50%以上

(長期的に60%)

■ 重点施策

1. 既存領域の基盤強化、安定成長の実現
2. コストコントロール、業務再構築による収益改善
3. 消化器領域への展開、さらなる飛躍に向けた準備

- ✓ 現行の計画は、新型コロナの影響など、前提条件が実態から大幅に乖離
- ✓ OrsiroやRF Needleの販売契約が終了する一方、**脳血管領域や胆膵内視鏡分野の新事業がスタート**
- ✓ 実態に即した最新の状況を反映するため、**2023年5月に新・中期経営計画を公表予定**

現行の中期経営計画
(2021/3期~2025/3期)

2020/11 開示

見直し

新・中期経営計画

2023/5 開示予定

- ✓ Wallaby Medical社と脳血管内治療デバイス11品目について、10年間の独占販売契約を締結

脳血管領域	
発売時期	2021/12 塞栓用コイル(発売済) 2024/3期～2028/3期* ²
品目区分	外科関連【仕入商品】 (Wallaby Medical/phenox)
製品概要	脳血管内治療デバイス11品目 (10年間の独占販売契約)
対象となる 症例・疾患	脳血管内治療 3万例/年* ³ - 急性期脳梗塞 - 脳動脈瘤
市場規模	250億円* ³ 成長率：年4～5%



- 脳血管内治療デバイスに特化
- 塞栓用コイル、血栓吸引カテーテル
- 販売実績30か国以上

2022年4月
買収

phenox

- 脳血管内治療デバイスに特化
- フローダイバーターなど新規性の高い商品を含む幅広いランナップ
- 販売実績45か国以上

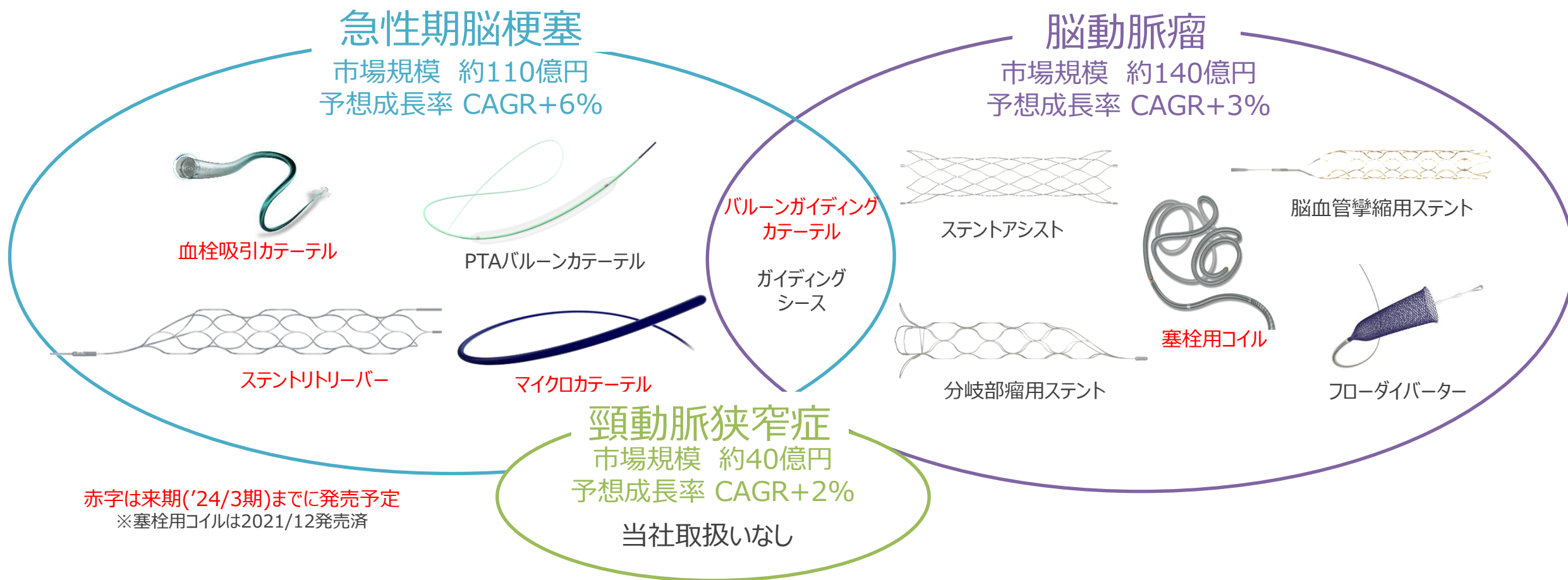
長期
独占
販売
契約

グローバルな販売実績を
有する2社の脳血管関
連商品をすべてカバー



*1 急性期脳梗塞・脳動脈瘤の症例数の合計。頸動脈狭窄症へのステント留置術などを除く

- ✓ 脳血管内治療の市場は大きく「急性期脳梗塞」、「脳動脈瘤」、「頸動脈狭窄症」に分かれる
- ✓ 市場全体は2022年で約290億円。今後、**CAGR+ 4 ~ 5 %**の成長を予想



*1 市場規模や成長率はR&D2022及び自社調査をもとに推計

*用語集p37~に用語解説あり ⇒ 脳血管内治療、急性期脳梗塞、脳動脈瘤、頸動脈狭窄症、フローダイバーター

当社の脳血管領域の製品ラインナップ

✓ 参入企業が多い中、後発ながら5年以内に業界内随一のラインナップを揃える見通し

品 目	急性期脳梗塞						脳動脈瘤				
	血栓吸引 カテーテル	ステントリ ーバー	バルーンガ イディング カテーテル	マイクロ カテーテル	ガイディング シース	PTA バルーン カテーテル	塞栓用 コイル	ステント アシスト	フローダイ バーター	分岐部瘤 用ステント	脳血管攣 縮用ステン ト
当 社	○ '24/3期 発売予定	○ '24/3期 発売予定	○ '24/3期 発売予定	○ '24/3期 発売予定	○ '25/3期 以降 発売予定	○ '25/3期 以降 発売予定	○ '21/12* ¹ 発売済	○ '27/3期 以降 発売予定	○ '28/3期 以降 発売予定	○ '27/3期 以降 発売予定	○ '27/3期 以降 発売予定
海外A社	○	○	○	○		○	○	○	○		
国内B社	○	○		○			○	○	○	○	
海外C社		○		○			○	○		○	
海外D社	○	○	○	○			○		○		
国内E社				○			○				
国内F社							○				
国内G社	○						○				

*1 販売開始時は腹部領域向けに限定販売。2022/4以降、脳血管領域向けにも販売開始

✓ 消化器の成長市場に差別化された自社製品シリーズで本格参入

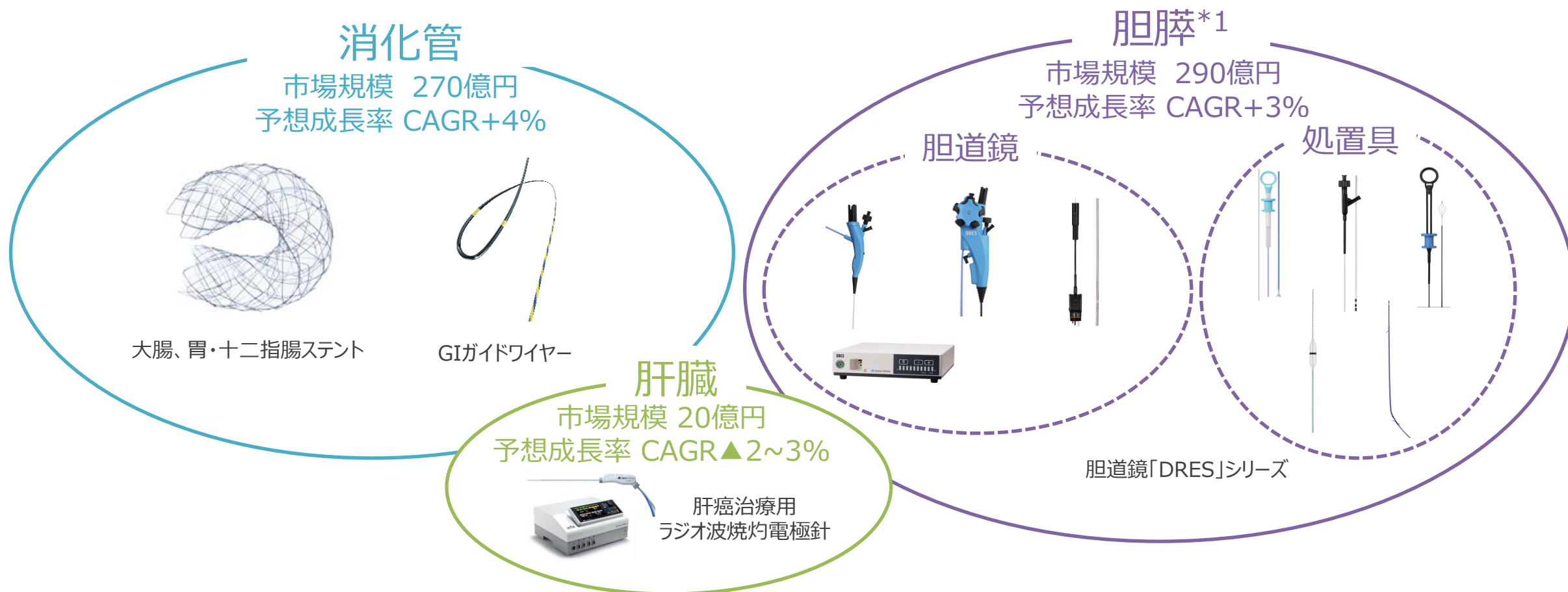
胆膵内視鏡領域(消化器)	
発売時期	2023/3期 3Q～
品目区分	消化器/PI 【自社製品】
製品概要	胆道鏡を中心とする胆膵関連処置具 8品目
対象となる 症例・疾患	ERCP* ¹ 26万例/年 - 胆管結石 - 胆管がん - 膵がん など
市場規模	290億円 成長率：年2～3%



2022/10 国内最大級の消化器関連学会JDDW
胆道鏡「DRES」の展示ブースの様子

*1 Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography (内視鏡的逆行性胆膵胆管造影)

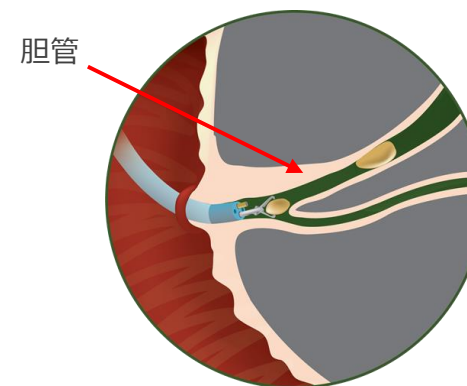
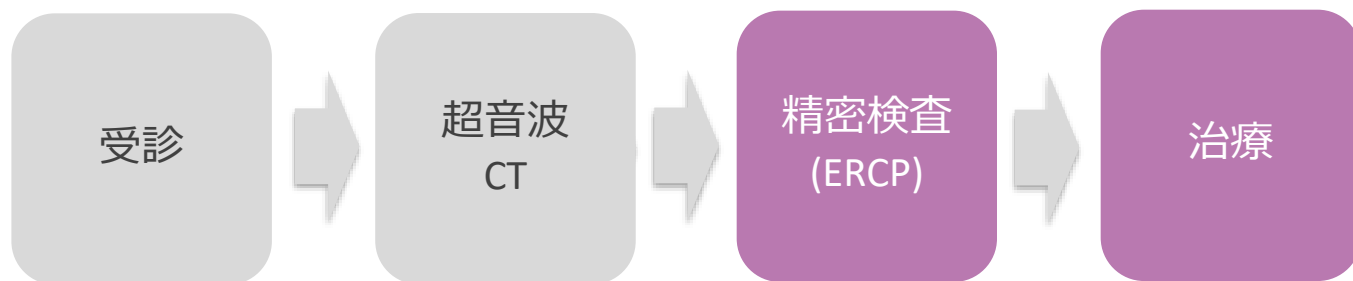
- ✓ 消化器領域の市場は大きく「消化管」、「胆膵」、「肝臓」領域に分かれる
- ✓ 市場全体は2022年予測で約580億円、**CAGR+3~4%**であり今後も安定的に成長している市場



*1 胆道鏡を含む 市場規模や成長率はR&D2022及び自社調査をもとに推計

- ✓ 十二指腸内視鏡の内部に挿入され、胆管や膵管内の病変を直接観察できる細径の内視鏡
- ✓ 胆道鏡内には処置具の挿入口があり、検査と同時に治療することも可能

胆道鏡使用のイメージ

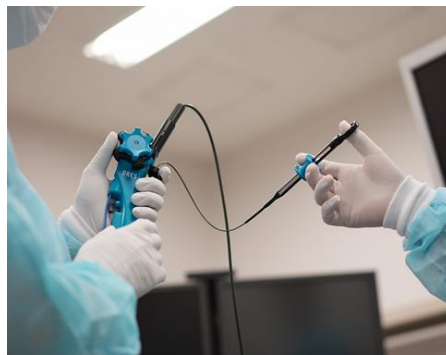


胆管への挿入イメージ

手術前のセットアップ



① 十二指腸内視鏡に胆道鏡を挿入



② 胆道鏡に処置具を挿入



③ 胆道鏡に小型内視鏡・処置具を挿入し準備完了



胆道鏡「DRES」の特長

医療現場のアンメットニーズ①

- 確実な検査・処置を行うために胆道鏡にはより大きな処置具をセットしたい…

解決

高機能カテーテルの製造技術で大口径チャンネルを実現

- ✓ 心腔内除細動カテーテル「BeeAT」に用いられているマルチルーメンシャフト構造を応用
- ✓ 処置具の選択肢を広げる

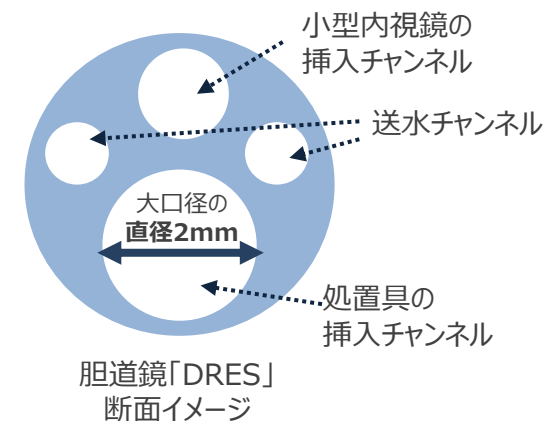
医療現場のアンメットニーズ②

- 胆道鏡は**非常に高価で、現状医療施設が持ち出しで負担**。高価なため使用制限も…

解決

小型内視鏡をリユース可能に

- ✓ 競合品は、シースと小型内視鏡が一体型の単回使用
- ✓ 「DRES」はこれを**非一体型**とすることで、高価な小型内視鏡を約10回使用可、**医療施設のコスト負担を大幅に軽減**



DRES
Cholangioscopy System



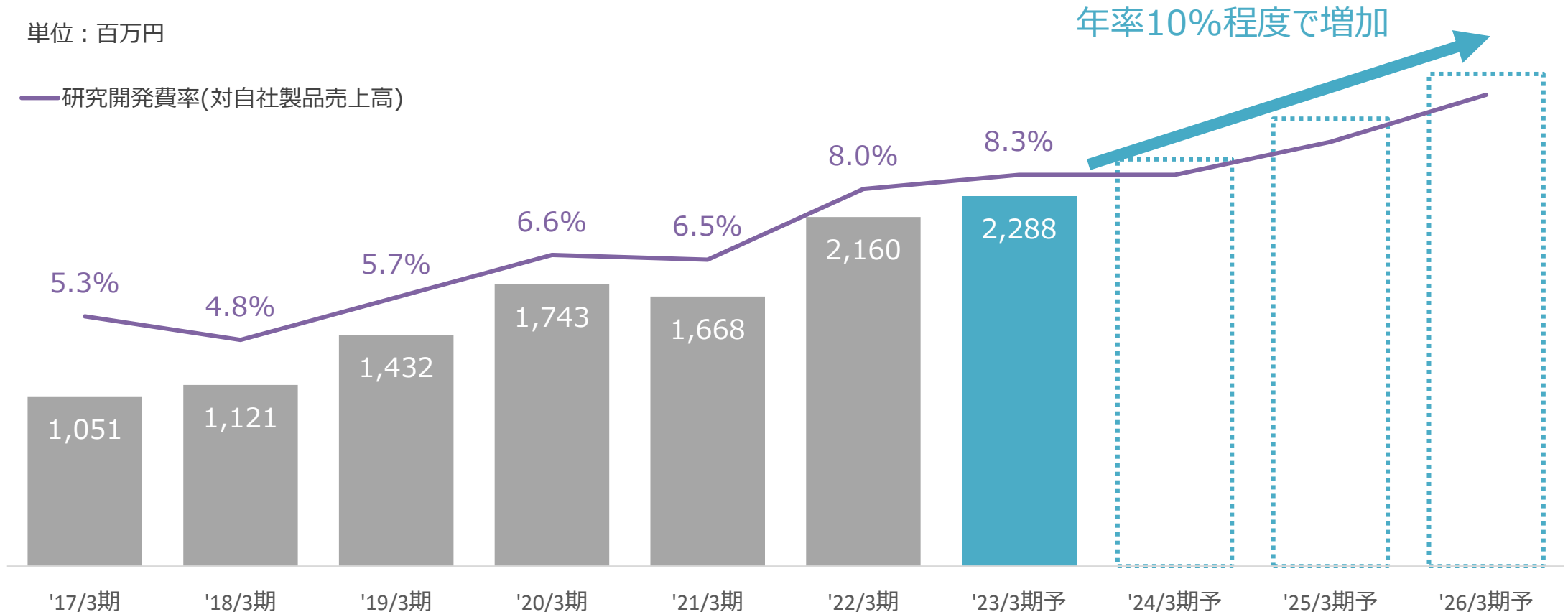
独自の技術と設計コンセプトから生まれた胆道鏡で
ERCPに関連する医療課題を解決

胆道鏡及び胆膵処置具の当社ラインナップ

- ✓ 胆道鏡「DRES」は用途に応じてスコープや処置具を「着せ替え」可能
- ✓ さらに複数品目の製品開発が進行中

	胆 道 鏡				胆 膵 処 置 具				
	DRES スリムスコープ (固定)	DRES スコープ (可変)	DRES コンソール	DRES CMOSカメラ (小型内視鏡)	DRES ERCPカニューラ	DRES 採石バスケット	DRES 生検鉗子	RIGEL 胆管拡張 バルーン	REGULUS 胆管用チュー ブステント
製品 イメージ									
用途	シャフトが曲がらない胆道鏡であり、主に検査で使用	シャフトが曲がる胆道鏡であり、主に治療で使用	胆道鏡と接続して画像出力する本体	DRESに挿入し胆管内を見る	DRESに挿入し造影剤を注入し造影を行う	DRESに挿入し結石を除去する	DRESに挿入し生体組織を採取する	閉塞した十二指腸乳頭および胆管をバルーンで拡張する	胆石や腫瘍により閉塞した胆管を広げるステント
発売 時期	2022/11 発売	2022/11 発売	2022/11 発売	2022/11 発売	2022/11 発売	2023/3期 4Q発売予定	2022/11 発売	2022/11 発売	2022/8 発売済

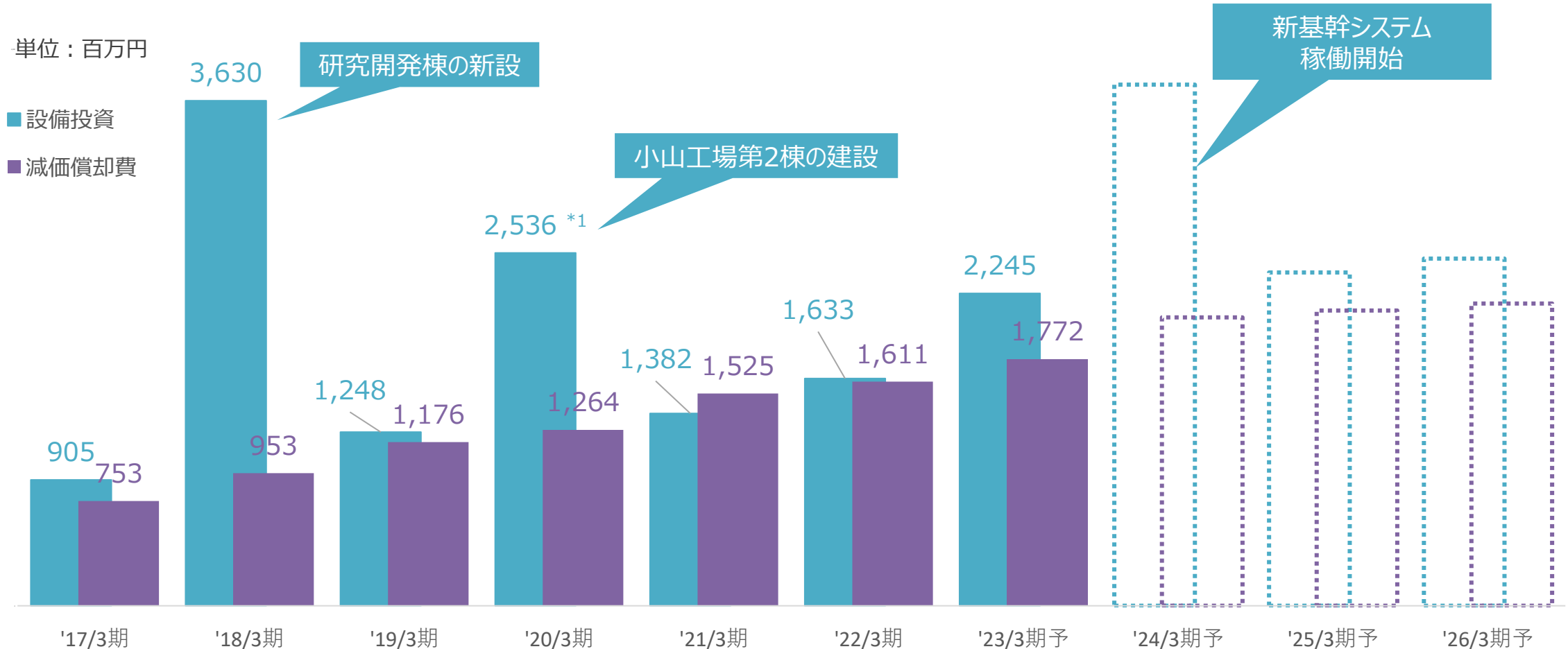
- ✓ 消化器領域の次世代品やパルスフィールドアブレーション(PFA)*¹ などの研究開発を推進
- ✓ 研究開発費は当面は、**年率10%程度で増加**していく見込み



*1 現行のアブレーション技術は高周波や冷凍・レーザー等の熱エネルギーを用いるのに対し、パルス電界は心筋のみを選択的に焼灼できる非熱エネルギーを用いる。近傍組織の損傷（合併症）を低減する次世代のアブレーション技術として近年注目を集めている。

設備投資・減価償却費

- ✓ 2024/3期は、新基幹システムのカットオーバーを予定。設備投資額は一時的に大幅な増加を見込む
- ✓ 2025/3期以降は、業務効率化などの設備投資で漸増となる見込み



*1 当時非連結子会社だったJLL Malaysiaでの設備投資（工場建設費用）約20億円を含まない。（JLL Malaysiaは2020/4から連結対象）

- ✓ 株主還元は、次の方針にしたがって、配当と自社株買いにより行います

方針

- ✓ 中長期的な成長のために必要な設備投資・研究開発投資等の今後の資金需要を踏まえたうえで、安定的な株主還元を実施する

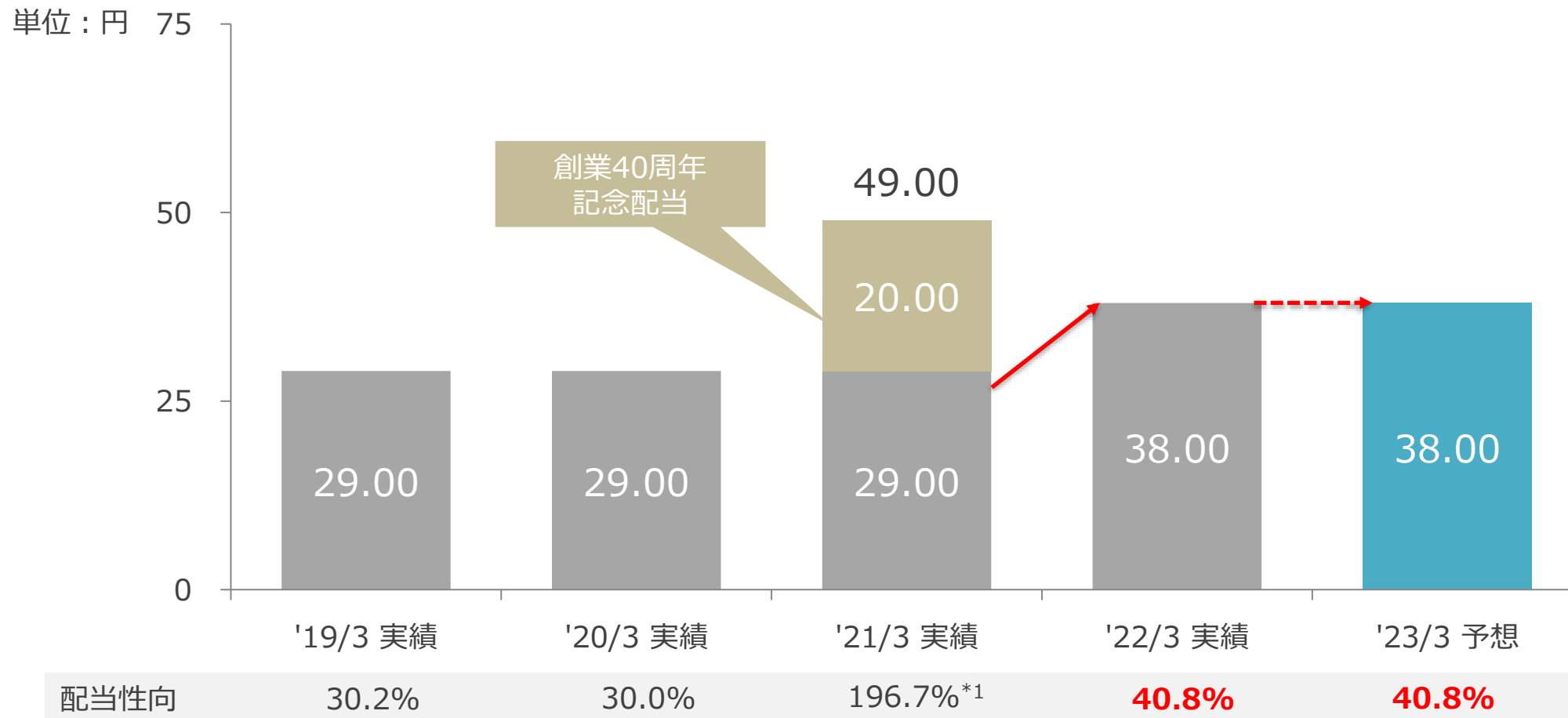
配当

- ✓ 配当は主要な還元方法と位置づけ、安定的な配当を目指す
(直近の配当性向の水準：40%)

自社株買い

- ✓ 資金需要と株価の水準を勘案したうえで、適切な時機をみて実行する
(直近の実施：2022年2月～7月
25億円/250万株(発行済株式の3.1%)を買い戻し、消却)

✓ 2022/3期に普通配当を**配当性向40%**の水準に引き上げ、2023/3期はその水準を維持する計画

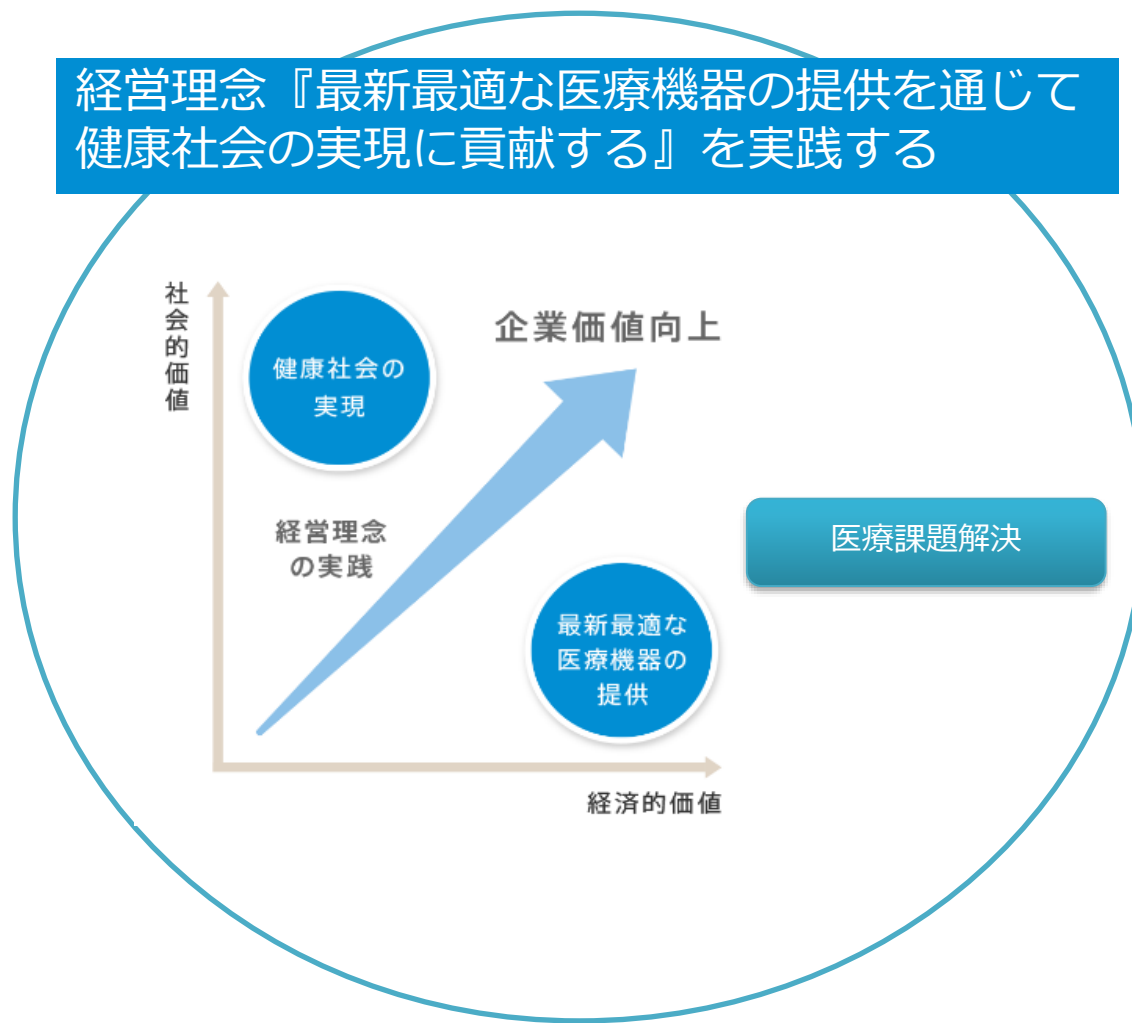


*1 多額の特別損失の計上（5,982百万円）があったため、異常値となっています。

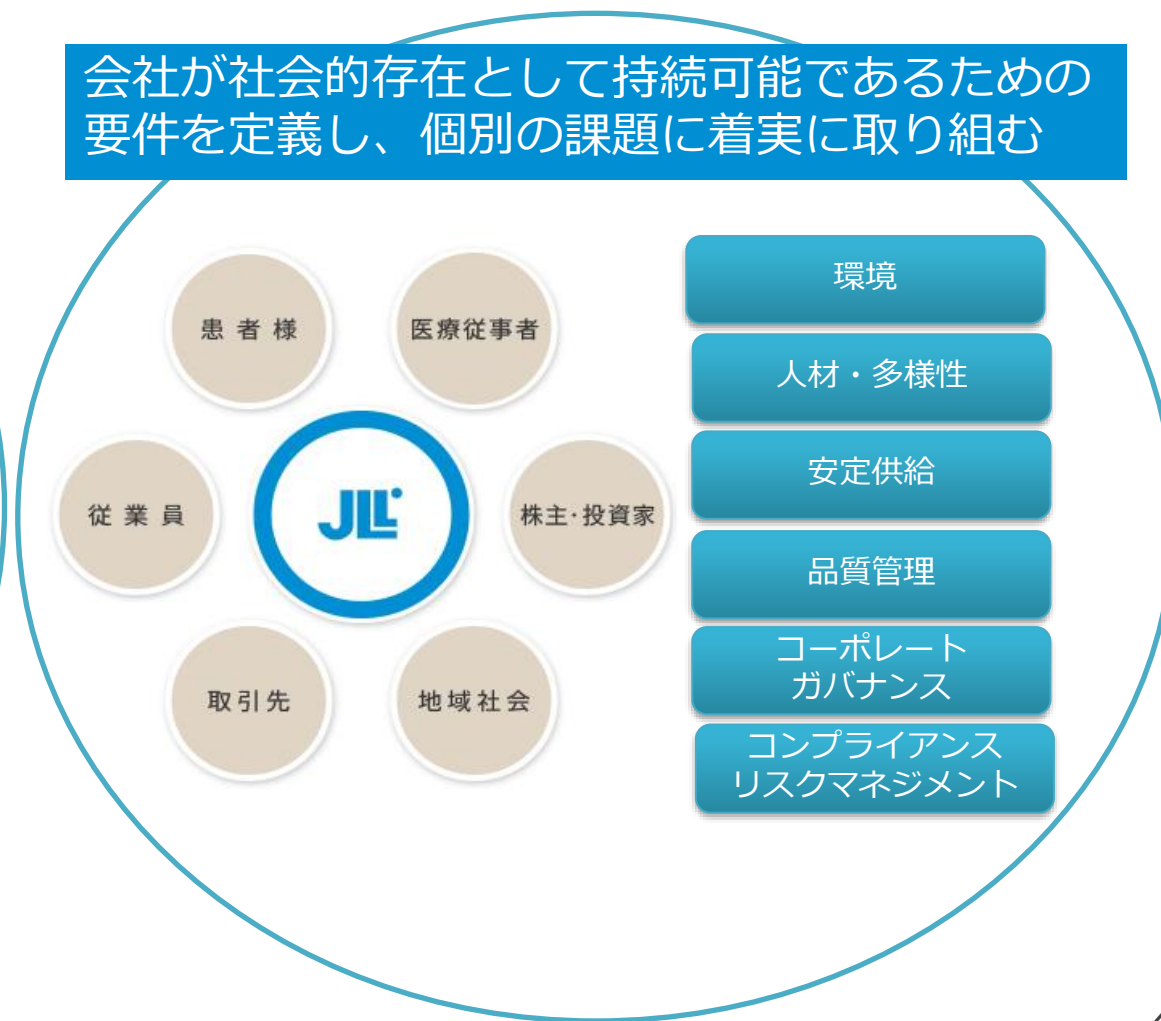
1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 短期業績
4. 中期計画
5. サステナビリティ関連
6. 補足資料

- ✓ マテリアリティ（重要課題）への取り組みを通じて、持続的に企業価値を創出できる会社作りを進める

経営理念『最新最適な医療機器の提供を通じて健康社会の実現に貢献する』を実践する



会社が社会的存在として持続可能であるための要件を定義し、個別の課題に着実に取り組む



✓ 個別のマテリアリティについて、具体的なKPIを設定し、取り組みの推進と進捗管理を行う

マテリアリティ	主要テーマ	KPI	SDGs
革新的な医療機器による医療課題の解決	自社製品の技術力向上	- 研究開発費 - 特許の出願件数	 
	臨床的価値の高い医療機器の導入	- オンリーワン製品の導入 - 独自技術の他領域への応用・展開	
環境負荷の低減	資源の有効利用	環境方針策定と推進体制整備	 
	温室効果ガスの削減	CO2排出量	
	廃棄物の削減・適切な処理	産業廃棄物のリサイクル率	
従業員が安心して働ける職場づくり	働きやすい職場環境の整備	ワークライフバランス改善に向けた現状把握および施策の検討・実施	 
	多様性の尊重	女性管理職比率	
	人権の尊重	人権リスクの低減に向けた取り組みの強化	

マテリアリティ	主要テーマ	KPI	SDGs
人材の育成と活躍機会の提供	社員の成長支援	- 人材方針策定および人材開発推進体制の構築 - 従業員満足度の把握と向上	
	教育研修の充実	一人当たり教育研修費	
製品の品質と安定供給	品質管理体制の維持強化	グローバルな規制要求事項への対応（MDSAP取得）	
	製品の安定供給	- サプライヤーリスクアセスメント調査の実施率 - 生産ライン複線化の推進	
コーポレート・ガバナンスの強化	監査・監督機能の強化 客観性および透明性のある経営判断・業務執行	コーポレートガバナンス・コードへの対応	 
	リスクマネジメント活動の強化	- リスクマネジメントの推進 - 情報セキュリティ対策の強化	
コンプライアンスの推進	企業活動における公正性と透明性の確保	- コンプライアンス教育の強化 - 内部通報制度の理解向上に向けた取り組みの推進	

1. 日本ライフラインとは
2. ビジネスモデル
3. 短期業績
4. 中期計画
5. サステナビリティ関連
6. 補足資料

補足資料 目次

1. 投資家様からのFAQ
2. 専門用語等の補足説明
3. 疾患及び治療の説明
 1. 心臓のしくみ
 2. 不整脈とは
 3. 不整脈の治療－リズムデバイス
 4. 不整脈の治療－EP/アブレーション
 5. 心房細動とは
 6. 心房細動のアブレーション治療
 7. アブレーションの手技①心房中隔穿刺
 8. アブレーションの手技②心腔内除細動
 9. アブレーションの手技③食道温モニタリング
 10. 大動脈瘤とは
 11. 大動脈瘤の治療－人工血管
 12. 大動脈瘤の治療－ステントグラフト
 13. 大動脈瘤の治療－オープンステントグラフト
4. ファクトシート
5. 開発生産拠点
6. 会社概要

Q：独自の強みは何か？	A：海外から最先端の医療機器をタイムリーに導入できる「商社」と、高機能カテーテルなどの独自技術を生かし製品開発を行う「メーカー」の両輪で、 相互補完的にプロダクト・ポートフォリオを強化していけるビジネスモデル が強みです。これを支える事業基盤として、全国をカバーする営業拠点を有しているほか、自社で薬事申請・安全管理・品質保証の機能を整備しています。（ 15ページも参照 ）
Q：商社とメーカーのすみわけはどう考えているのか？競合しないのか？	A：仕入商品は海外スタートアップの「最先端で新規性が高い」ものが多く、自社製品は日本の医師の繊細なニーズに応える「ニッチでハイクオリティ」なものが多いです。したがって、基本的に競合することはなく、相互補完的になります。当社は、 最新最適な医療機器があれば、自社品/他社品の区別なく素早く医療現場に導入することが、当社ならではの医療に対する貢献 であると考えており、基本的なビジネスの方針としています。（ 15ページも参照 ）
Q：今後の成長戦略をどう考えているか？	A：創業以来、心臓血管領域のスペシャリストとして、この領域に特化してきました。しかし、近年は企業間の競争が激しく、市場価格が大きく下落する領域もあります。当社は、EP/アブレーションや外科関連の自社製品を中心に据えつつも、既に参入した消化器領域のように、今後も 自社の独自技術を他領域へ展開 していきます。また、商社としても、新領域として脳血管領域に進出しております。

Q：海外販売戦略はどうなっているのか？	A： 現状、韓国・台湾・北米・欧州などへの販売実績がありますが、海外売上高比率は未だ1%程度です。当社の自社製品は国内市場向けに開発されたハイスペックなものが多く、海外展開においては、しばしばコストがネックとなります（海外の方が国内より納入価格が低いケースが多い）。 海外工場での生産による原価低減や、海外マーケットに即した廉価版の製品開発などを通じて、引き続き重要課題として取り組んでいきます。
Q：心腔内除細動カテーテル(BeeAT)はなぜ長い期間オンリーワンたりえたのか？なぜ海外展開しないのか？	「アブレーション手術中に心房細動が発生した場合、除細動で止める」手技が、日本特有であることが要因です。 欧米ではこれがスタンダードではないため、海外で除細動機能付きカテーテルの需要がほとんどありません。また、国内のEPカテーテルの競合先はほとんどが巨大な外資系企業であり、これらの企業が日本市場だけで通用する製品を自社開発するインセンティブがないことから、2012年の発売以来、他社参入がなくオンリーワンとなっています。
Q：M&Aに関する基本的な方針は？	M&Aは成長戦略の選択肢のひとつと考えており、製品開発に活かせるユニークな技術を有する会社や、 販売面において強いシナジーを発揮できる製品 を持っている会社などに対して、M&Aの機会があれば、積極的に検討します。

Q：棚卸資産回転率が低いのはなぜか？	医療機器の販売は、自社在庫を病院に預け、手術使用時に売上を認識する 預託販売 が一般的です。緊急症例にも備え、各病院に幅広く製品の在庫を置くことが必要です。また、当社の取扱い品は患者様の生命に関わる製品であるため、非常時に備え 常時一定数の在庫を確保 することで供給責任を果たしています。結果として、他業種に比べて在庫負担が重く、棚卸資産回転率はやや低い傾向にあります。
Q：業績の為替感応度はどれくらいか？	当社の商品仕入契約は約70%が円建てであり、 全体の損益上は大きな影響はありません 。また、当社は 移動平均法 で在庫単価を算定しているため、為替の変動による仕入価格の上昇や製品部材の輸入コストが上昇があっても、その影響は長期間にわたって平準化されます。

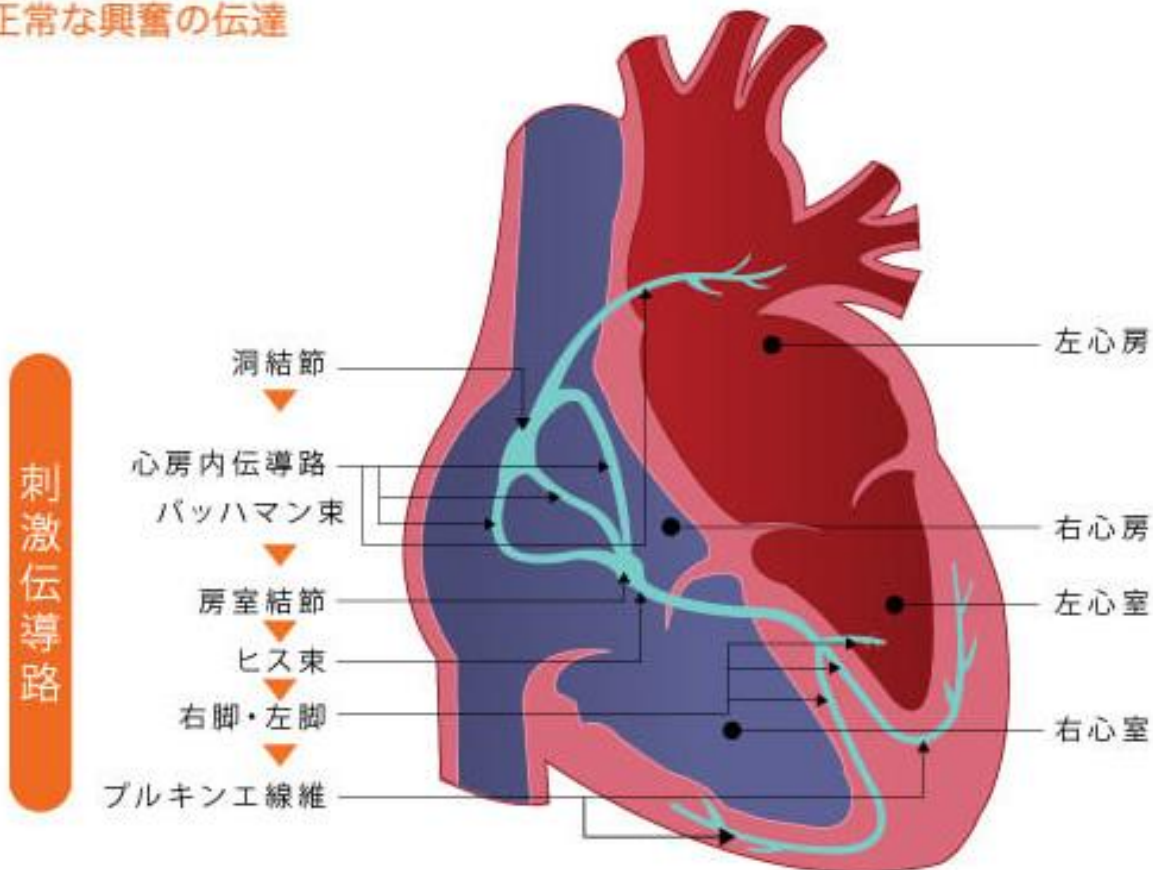
保険償還価格	日本の公的医療保険制度において医療機関が診療報酬として保険機関に請求できる代金のうち、医療材料として請求できる材料(特定保険医療材料)の請求価格。 当社の取扱い製品はほとんどが、クラスⅢ・Ⅳ「高度管理医療機器」に分類され、保険償還の対象となっている。 一般に、販売代理店から医療機関への医療機器の納入価格は、保険償還価格に一定の掛率を乗じた額であり、保険償還価格と納入価格の差額が医療機関の利益となる。 医療機器については、2年に1回の頻度で国が市場価格の調査を行い、それに基づき改定する。 (市場競争により、市場価格が下がれば、保険償還価格も下落改定となることが多い。)
心房細動 (Atrial Fibrillation)	心房と呼ばれる心臓内の部屋が小刻みに震えてけいれんする心臓の病気。心房細動は心臓内に血栓(血の固まり)が発生する要因とされ、 致死性の心原性脳梗塞を発症するリスクを高める。 心房細動のアブレーション治療の症例数(AF症例数)は当社の主力事業のEP/アブレーションの業績と相関性が非常に高い。当社は、AF症例数を重要KPIとしてモニターし、毎年独自に症例数調査を実施。年間症例数は2022年現在で約9万例と推測。一方、国内の潜在的な患者母数は大きく、約180万人とも言われる。
アブレーション (Ablation)	不整脈の根治 を目指す治療法のひとつ。心臓内で不整脈の原因となっている異常な電気回路に対して、心筋焼灼(アブレーション)用のカテーテルを用いて焼灼または冷凍凝固を行うことで、正常な状態に戻す。 アブレーション治療の対象として最も多いのが心房細動 であり、全体の約8割を占める。

自社製品比率	売上高に占める自社製品の比率。自社製品の粗利率は約60～70%。（仕入商品は約30～40%） 自社製品比率の上昇は、製品ミックスの良化につながり、売上総利益率の上昇要因となる。
オンリーワン製品/商品	当社が独占的に販売している製品/商品で、市場に他に類似品がないため、競争優位性が高い。 保険償還で単独の価格区分を獲得している ことがほとんど。自社製品では、心腔内除細動カテーテル「BeeAT」やオープンスtentグラフト「Frozenix」、仕入商品では、BSC社製の完全皮下植込み型除細動器(S-ICD)「EMBLEM™ MRI S-ICD System」が該当。
滅菌期限	医療機器メーカーはQMS（品質管理基準）に関する省令に基づき、厳密な工程を順守することで、医療機器の滅菌性を保証している。 滅菌には有効期限があり、滅菌期限が過ぎた製品は臨床使用することができない。 （廃棄処理）

3-1. 心臓のしくみ

心臓は、全身に血液を送り出すポンプのような役割をしており、右心房にある洞結節で発生した電気刺激が心筋に伝わり拍動することで、血液を送り出します

正常な興奮の伝達



- 人間の活動に必要な酸素や栄養を運搬するのは血液であり、心臓はその血液を身体のスミズミまで送り出すポンプの役割をしている
- 正常な成人の心臓は1分間に約60～100回収縮して血液を送り出しおり、収縮は心臓の右心房上部にある洞結節で発生した電氣的興奮が、心房内伝導路、房室結節、ヒス束、右脚・左脚、プルキンエ線維を伝わり心筋まで伝達することで起こる
- 心房と心室は一定の間隔をおいて順番に収縮して、効率的に血液を全身に送り出す

3-2. 不整脈とは

不整脈とは、心臓の電気刺激が正常に伝わらないことにより、ポンプ機能が正常に働かない状態であり、2種類の症状があります

成人の正常脈拍は60～100回/分

- 40回/分未満(遅)・・・**徐**脈性不整脈
- 100回/分以上(早)・・・**頻**脈性不整脈

原因は・・・

- 心筋梗塞や心筋症といった心臓病
- 高血圧や高脂血症
- 精神的なストレス
- 飲酒・喫煙
- 加齢 etc..

症状は・・・

動悸



息切れ



胸部不快感



倦怠感



目眩



失神



3-3. 不整脈の治療 - リズムデバイス

体内にペースメーカー、ICD、CRT-Dを植込み、不整脈が発生した際に、電気刺激（ペースメーカーの機能）や電気ショック（ICD、CRT-Dの機能）を与えます

徐脈性不整脈 (遅い)
Brady (ブラディ)

- 洞不全症候群 (SSS)
- 房室ブロック (AVB)
- 徐脈性心房細動 (AF) etc..



ペースメーカー

頻脈性不整脈 (早い)
Tachy (タキ)

- 心房細動 (AF)
- 心房粗動 (AFL)
- 上室性頻拍 (SVT)
- 心室期外収縮 (VPC) etc..



アブレーション



致死性不整脈

- 心室頻拍 (VT)
- 心室細動 (VF)



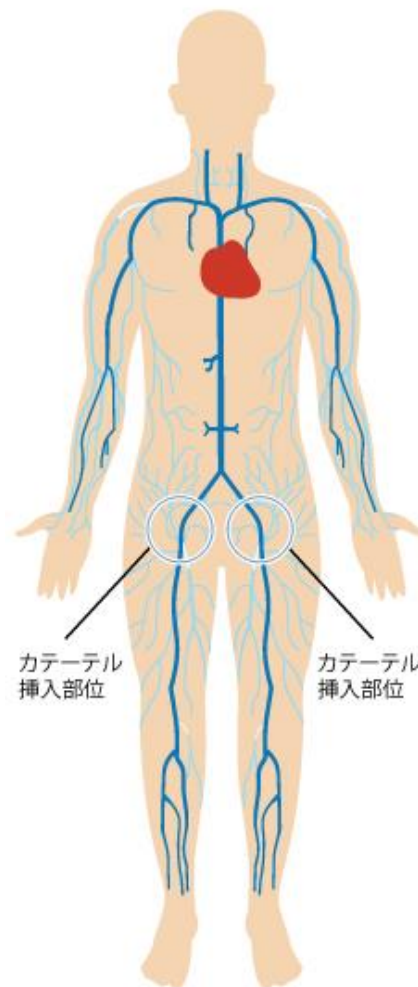
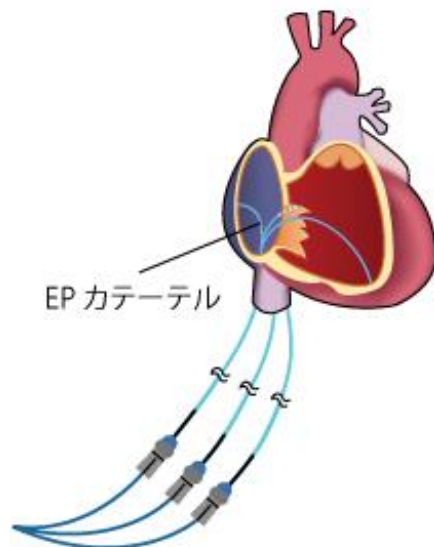
T-ICD

3-4. 不整脈の治療 - EP/アブレーション

検査に用いるEP（電気生理）カテーテルと、治療用のアブレーションカテーテルがあります

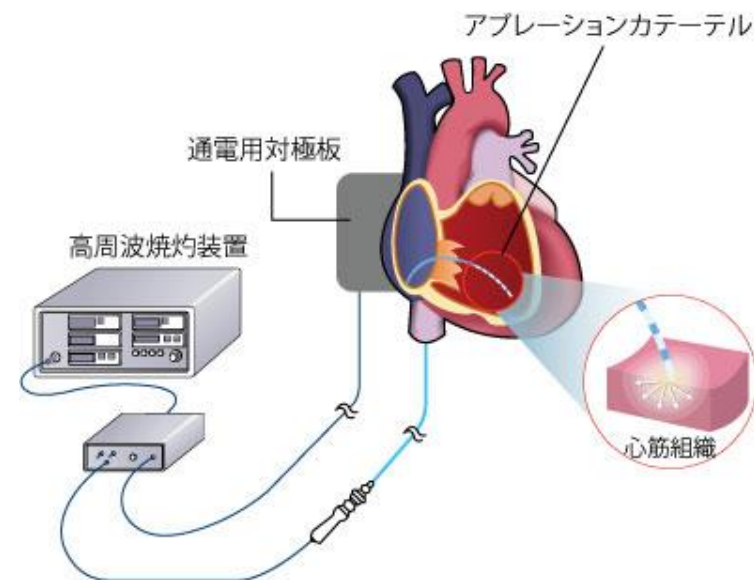
EPカテーテル （検査用）

電気生理カテーテルを血管の中を通して心臓内に挿入して、外部電気刺激装置を使って不整脈の検査をします。



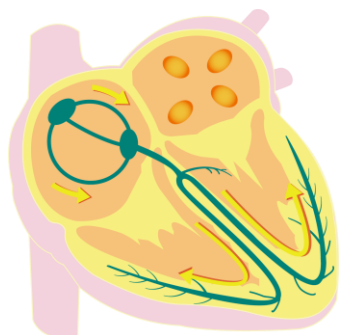
アブレーションカテーテル （治療用）

脈が異常に早くなる頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激経路を、高周波により焼き切り治療します。



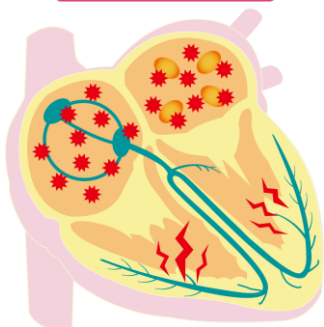
心房細動（AF）とは、心房内で不規則に電気刺激が多発し、心房が痙攣したような状態になる不整脈です。血液が滞留しがちになるため、血栓ができやすく、脳梗塞などを引き起こす危険性があります。

正常



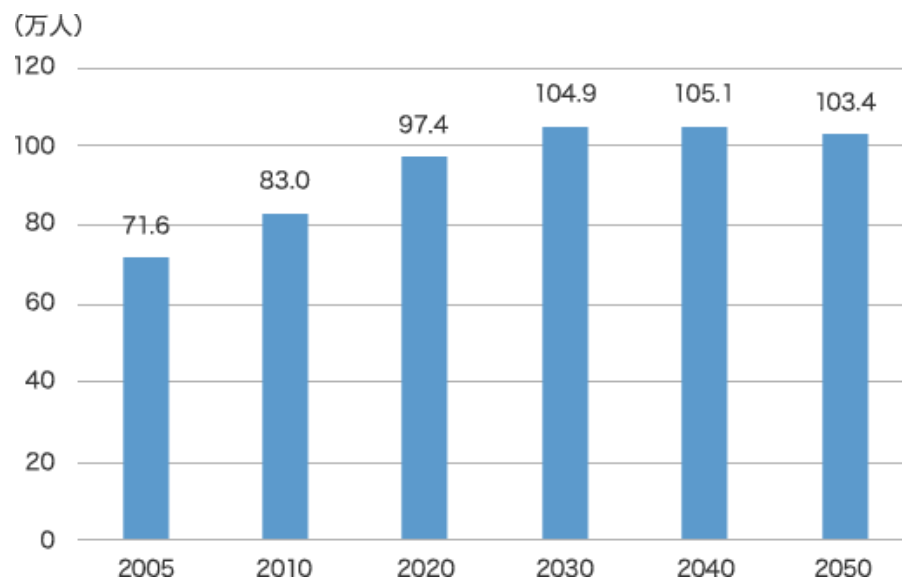
規則的な動き

心房細動



不規則な動き

日本での心房細動有病率の変化予測



Inoue et al. Int J Cardiol 2009; 137: 102-107より作図

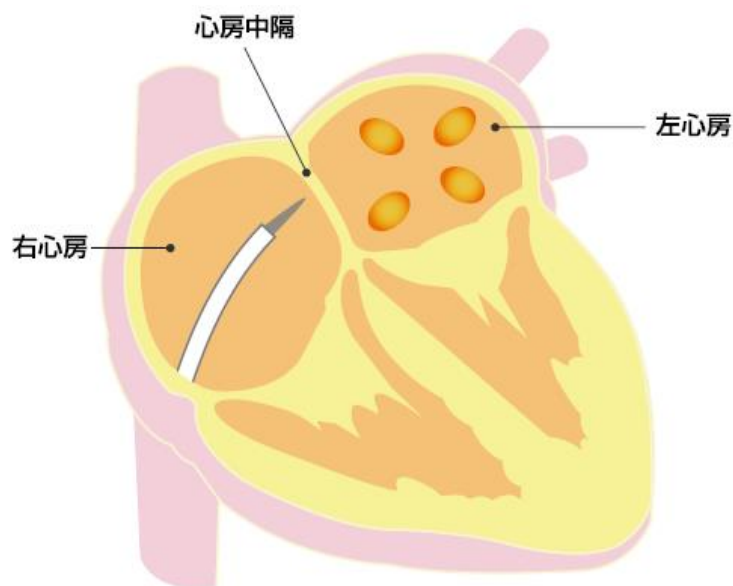
2030年には100万人を超えると予測される

- 心房と呼ばれる心臓内の部屋が小刻みに痙攣し、正常に機能しなくなる不整脈の一種
- 心房細動が起こると、血液の滞留により、血栓が形成されやすくなる。この血栓が血流に乗り他の臓器の血管を塞いでしまうことにより、脳梗塞等の動脈塞栓症を引き起こす危険性がある
- 心房細動の治療には、外科手術による治療、薬剤による治療、そしてカテーテルを用いた経皮的な治療であるアブレーション治療(心筋焼灼術)がある

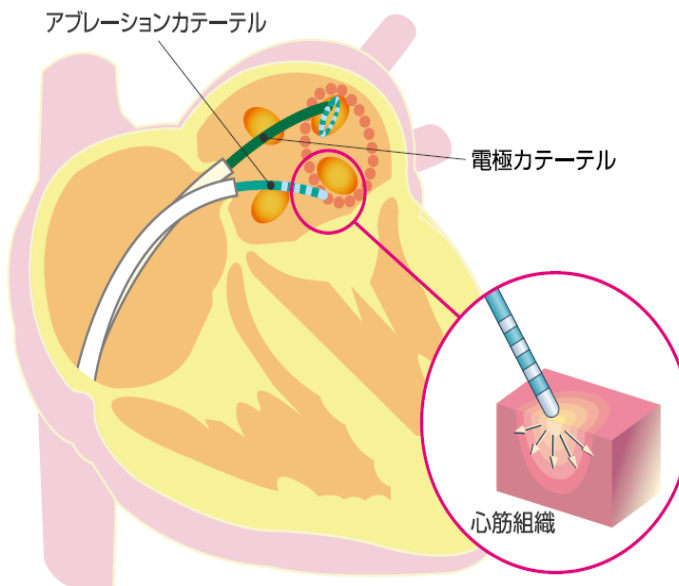
3-6. 心房細動のアブレーション治療

心房細動の原因となる肺静脈（左心房）の周りをアブレーションカテーテルで焼き切り、不整脈を治します

心房細動の原因となる電気刺激は
主に肺静脈から発生



肺静脈のまわりを焼灼することで、
電気刺激の伝達を遮断



日本では大きく分けると
2つの治療が受けられる

カテーテルアブレーション

カテーテルの先端を使って
心筋を1箇所ずつ点状に
加熱し治療する



バルーンアブレーション

先端に風船状に膨らむ器
具をつけたカテーテルを用
いて、膨らませた風船を心
筋に密着させ治療する



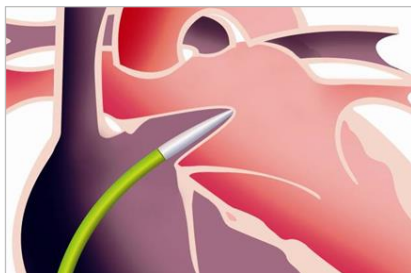
3-7. アブレーションの手技①心房中隔穿刺

左心房のアブレーション治療をするため、心房中隔にカテーテルを通すための穴を開けます。従来の金属製の針（機械針）でなく、高周波を用いる方法は手技の安全性を高めます

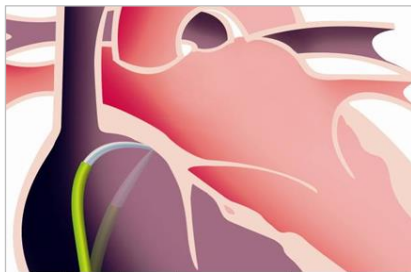
【機械針を用いた手技】



押し過ぎによる
誤穿刺のリスク



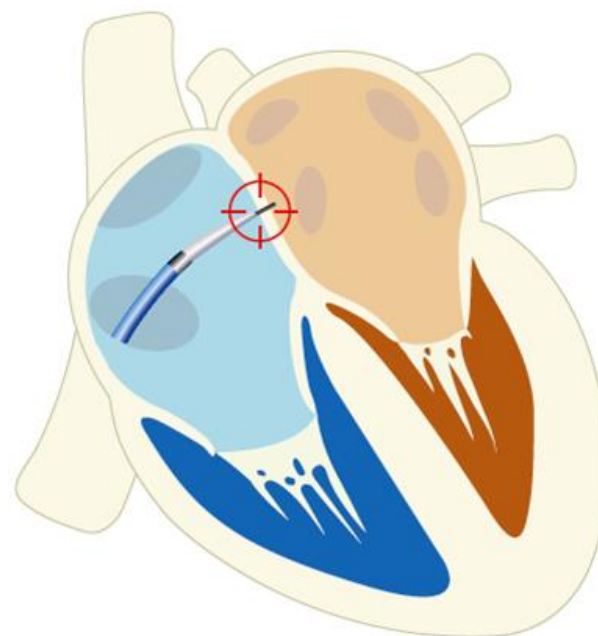
困難な症例①
弾力性のある中隔



困難な症例②
厚い中隔

【高周波を用いた手技】

押す力を必要とせず
誤穿刺のリスクが少ない

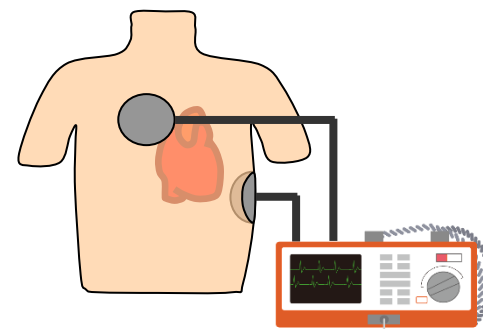


3-8. アブレーションの手技②心腔内除細動

アブレーション治療時に発生する心房細動に対して、心腔内で除細動を行います
体表面式に比べ低いエネルギーで除細動ができ、手技の低侵襲化が可能になります

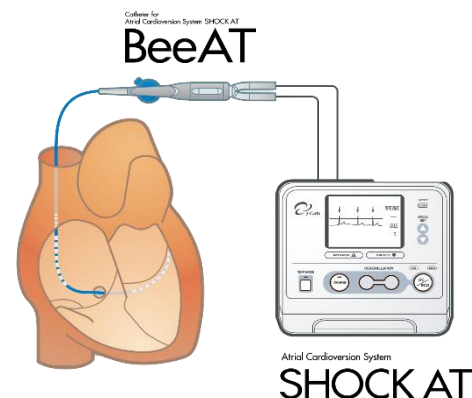
体外式除細動

心臓を挟むように除細動パッチ(±極)
貼り、体外式除細動器から直流電流
を流す



心腔内除細動

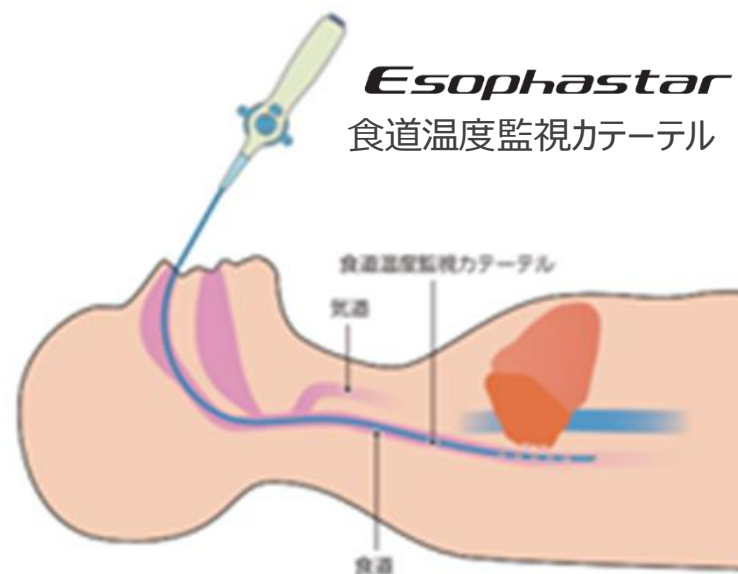
心臓(左心房)を挟むように留置され
たカテーテルの電極から直流電流を
流す



3-9. アブレーションの手技③ 食道温モニタリング

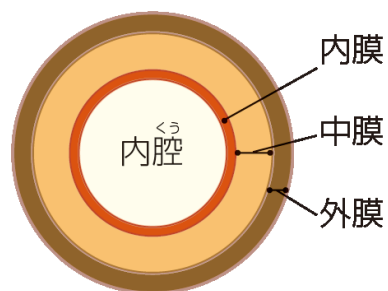
心房細動のアブレーション治療で対象となる左心房は、食道に近く、過度の焼灼により食道を損傷するリスクがあります
食道の温度を監視することで、アブレーション治療の安全性を高めます

鼻からカテーテルを食道へ挿入
食道内の温度上昇を監視

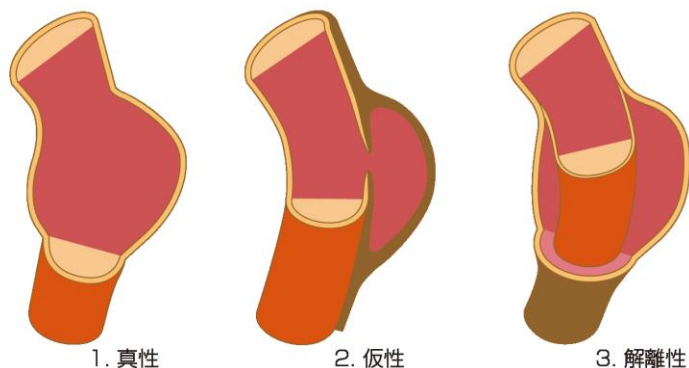


- 食道障害を起こさないように、食道温度をモニターしながらアブレーションを実施
- 食道温度が上昇した場合は、焼灼を中断する

心臓から全身に送り出される血液が通る、最も太い血管である大動脈が、動脈硬化などによりもろくなり、高い圧力によって膨らみ瘤（こぶ）ができる疾患を大動脈瘤といいます



血管の壁のイメージ

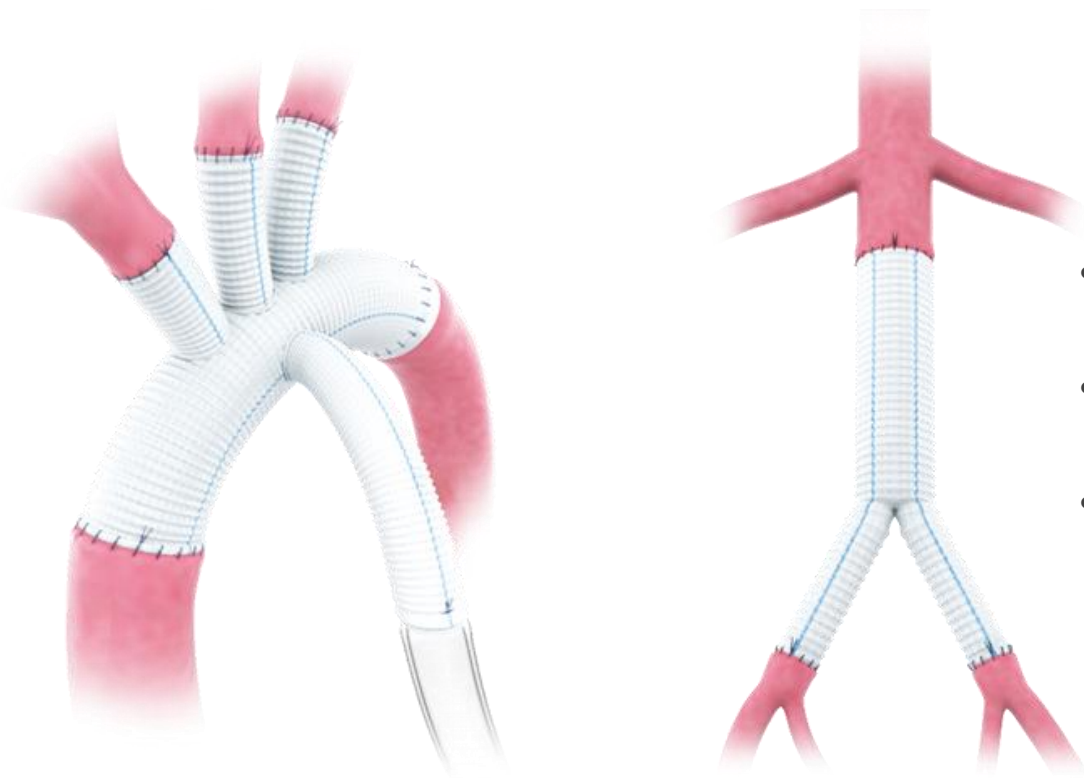


【大動脈瘤の主な種類】

1. 真性…血管の壁の3層構造が保たれたまま瘤状の膨らみができる
2. 仮性…血管の壁の一部が内膜、中膜、外膜の3層とも欠け、そこから漏れた血液が周りの組織を圧迫して瘤状の膨らみができる
3. 解離性…内膜に亀裂ができ、内膜と中膜との間に血液が入り込み、2枚の膜の間が剥がされ、剥がされた部分に血液が入り込み、裂け目が広がる

3-11. 大動脈瘤の治療 – 人工血管

大動脈にできた瘤の部分を開胸手術で切除し、人工血管に置換します



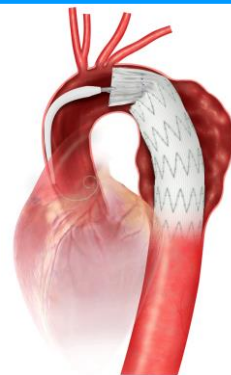
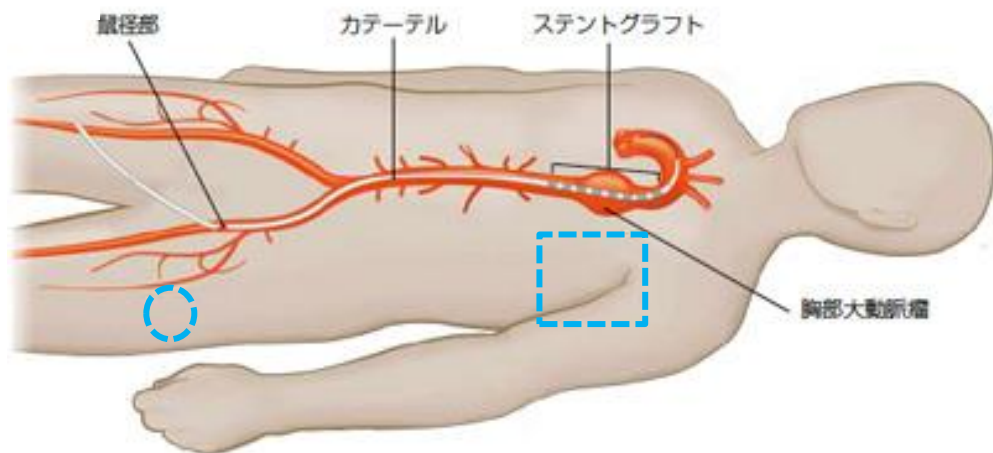
- 全身麻酔下で開胸もしくは開腹手術により実施
- 瘤の形状にかかわらず手術が可能
- 高い有効性を示しており、現在は治療における第一の選択肢

人工血管に置換したイメージ

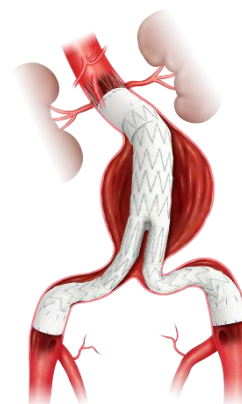
3-12. 大動脈瘤の治療 – スtentグラフト

足の付け根の血管から、カテーテルを用いてstentグラフトを治療部位へ進め、stentの拡張力により、血管の内側から胸部や腹部の瘤をカバーします

図7 stentグラフトの挿入



TEVAR : 胸部大動脈瘤stentグラフト治療

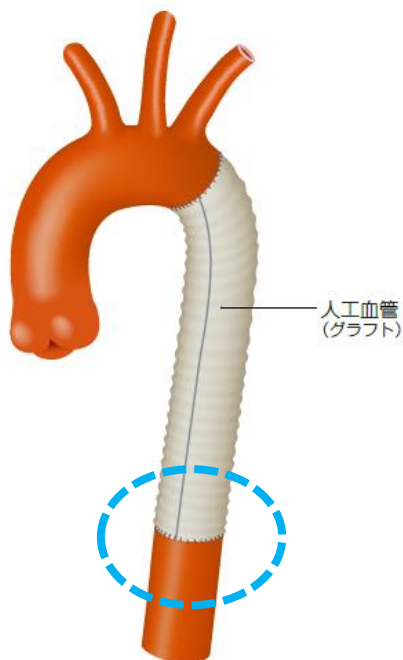


EVAR : 腹部大動脈stentグラフト治療

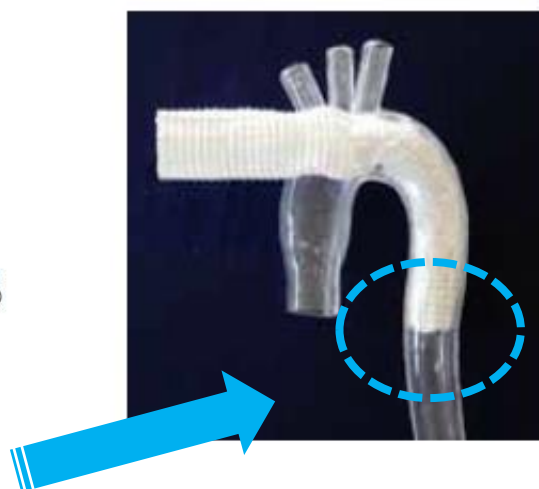
- 開胸・開腹による手術のリスクが高く、治療が出来なかった患者様に対して治療が可能に
- カテーテルを用いることで、極めて低侵襲な治療が可能に

オープンステントグラフトは片方の縫合が不要であり、手術が1回で済むことから、低侵襲な治療が可能です。

＜人工血管の場合＞



＜オープンステントグラフトの場合＞



末梢側はステントの拡張力で固定 ⇒縫合が不要

左開胸が不要であり、手術が1回で済む

4. ファクトシート 1/4

①連結損益計算書

金額表示単位未満は切捨

		2018/3期 FY2017	2019/3期 FY2018	2020/3期 FY2019	2021/3期 FY2020	2022/3期 FY2021					2023/3期 FY2022								
		通期 実績	通期 実績	通期 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	YoY	%	2Q累計 実績	YoY	%	2Q累計 計画※1	通期 計画※1
売上高	百万円	42,298	45,525	51,761	51,286	12,612	12,518	13,879	12,459	51,469	12,969	12,519	1	0.0	25,489	358	1.4	24,861	51,527
売上原価	百万円	15,722	17,703	22,570	22,622	5,331	5,505	6,415	5,380	22,634	5,510	5,432	-73	-1.3	10,942	105	1.0	10,549	21,734
売上総利益	百万円	26,576	27,822	29,191	28,664	7,280	7,012	7,463	7,078	28,835	7,458	7,087	75	1.1	14,546	253	1.8	14,312	29,792
売上総利益率	%	62.8	61.1	56.4	55.9	57.7	56.0	53.8	56.8	56.0	57.5	56.6	—	—	57.1	—	—	57.6	57.8
販管費	百万円	15,904	17,295	18,756	18,296	4,960	4,650	4,641	4,608	18,861	4,751	4,675	25	0.5	9,426	-184	-1.9	9,909	19,781
営業利益	百万円	10,671	10,526	10,434	10,367	2,319	2,362	2,822	2,469	9,973	2,707	2,412	49	2.1	5,119	437	9.4	4,403	10,011
営業利益率	%	25.2	23.1	20.2	20.2	18.4	18.9	20.3	19.8	19.4	20.9	19.3	—	—	20.1	—	—	17.7	19.4
営業外収益	百万円	259	571	891	1,031	160	73	6	75	316	72	122	48	66.6	194	-39	-16.7	46	94
営業外費用	百万円	200	289	900	879	62	41	132	49	285	105	96	55	134.3	201	98	95.2	57	102
経常利益	百万円	10,730	10,808	10,425	10,519	2,417	2,394	2,697	2,495	10,005	2,674	2,438	43	1.8	5,113	300	6.2	4,392	10,003
経常利益率	%	25.4	23.7	20.1	20.5	19.2	19.1	19.4	20.0	19.4	20.6	19.5	—	—	20.1	—	—	17.7	19.4
特別利益	百万円	1	5	3	3	1	0	14	29	44	1	0	0	66042.0	2	0	70.0	—	—
特別損失	百万円	116	12	4	5,982	0	1	6	0	8	5	0	-0	-53.1	6	-4	200.4	6	8
税引前当期純利益	百万円	10,615	10,801	10,425	4,540	2,418	2,393	2,705	2,523	10,041	2,670	2,438	45	1.9	5,109	297	6.2	4,386	9,995
税金費用	百万円	3,137	3,077	2,676	2,540	715	504	774	562	2,556	724	682	178	35.4	1,406	187	15.3	1,192	2,720
当期純利益	百万円	7,478	7,723	7,748	2,000	1,702	1,889	1,931	1,961	7,484	1,946	1,756	-133	-7.1	3,702	110	3.1	3,193	7,274
当期純利益率	%	17.7	17.0	15.0	3.9	13.5	15.1	13.9	15.7	14.5	15.0	14.0	—	—	14.5	—	—	12.8	14.1
自社製品比率	%	55.4	54.9	50.7	49.9	51.4	51.3	52.8	54.0	52.4	54.6	53.2	—	—	53.9	—	—	—	—
研究開発費	百万円	1,121	1,431	1,743	1,667	425	547	534	652	2,159	547	583	36	6.7	1,131	158	16.3	—	2,288
設備投資	百万円	3,630	1,248	2,536	1,382	—	—	—	—	1,633	—	—	—	—	—	—	—	—	2,245
減価償却費	百万円	953	1,176	1,264	1,525	355	374	431	450	1,611	373	351	-23	-6.2	724	-4	-0.6	—	1,772

※1 2022/5/11発表

4. ファクトシート 2/4

②連結貸借対照表

金額表示単位未満は切捨

		2018/3期 FY2017	2019/3期 FY2018	2020/3期 FY2019	2021/3期 FY2020	2022/3期 FY2021					2023/3期 FY2022						
		通期 実績	通期 実績	通期 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	%		2Q累計 計画	通期 計画	
流動資産	百万円	40,821	41,665	44,077	44,522	41,137	43,325	42,156	45,153	45,153	40,481	41,918	-3,234	-7.2		—	—
有形固定資産	百万円	9,914	9,920	11,341	13,111	13,273	13,301	13,062	12,911	12,911	12,935	12,978	66	0.5		—	—
無形固定資産	百万円	576	558	493	505	562	1,366	1,423	1,470	1,470	1,723	2,102	631	43.0		—	—
投資その他	百万円	9,668	15,638	19,089	14,822	14,678	14,547	14,080	13,662	13,662	13,789	14,375	712	5.2		—	—
固定資産	百万円	20,159	26,117	30,923	28,439	28,514	29,215	28,566	28,044	28,044	28,449	29,455	1,410	5.0		—	—
資産	百万円	60,980	67,783	75,000	72,962	69,651	72,540	70,722	73,197	73,197	68,930	71,373	-1,823	-2.5		—	—
流動負債	百万円	15,452	14,580	16,093	16,467	15,273	16,294	12,929	14,211	14,211	12,970	13,570	-640	-4.5		—	—
固定負債	百万円	4,438	6,709	7,500	5,190	5,050	4,930	4,659	4,418	4,418	4,301	4,214	-204	-4.6		—	—
負債	百万円	19,890	21,289	23,594	21,657	20,324	21,224	17,588	18,629	18,629	17,272	17,785	-844	-4.5		—	—
株主資本	百万円	41,088	46,496	51,618	51,267	49,080	51,008	52,940	54,362	54,362	51,361	53,075	-1,287	-2.4		—	—
その他包括利益累計額	百万円	-11	-16	-211	37	247	307	194	205	205	297	512	307	149.9		—	—
新株予約権	百万円	13	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		—	—
純資産	百万円	41,090	46,493	51,406	51,304	49,327	51,316	53,134	54,567	54,567	51,658	53,588	-979	-1.8		—	—
負債純資産 合計	百万円	60,980	67,783	75,000	72,962	69,651	72,540	70,722	73,197	73,197	68,930	71,373	-1,823	-2.5		—	—
現金及び預金	百万円	6,732	8,018	9,555	13,708	10,556	12,946	11,624	16,058	16,058	11,229	14,126	-1,932	-12.0		—	—
売上債権	百万円	12,331	12,178	13,762	13,145	12,790	12,509	13,964	12,437	12,437	13,132	12,649	211	1.7		—	—
棚卸資産	百万円	13,579	17,071	18,187	15,987	16,117	16,197	15,166	14,850	14,850	14,201	13,713	-1,136	-7.7		—	—
仕入債務	百万円	2,278	3,087	4,081	2,872	3,360	3,962	2,908	3,287	3,287	3,203	3,093	-193	-5.9		—	—
利益剰余金	百万円	25,091	30,499	35,912	35,352	33,108	34,998	36,929	38,890	38,890	37,795	39,551	661	1.7		—	—
有利子負債	百万円	9,396	9,987	11,538	10,396	10,285	9,969	8,614	8,352	8,352	7,679	7,331	-1,020	-12.2		—	—
ネット・デット	百万円	2,663	1,968	1,983	-3,311	-271	-2,976	-3,010	-7,705	-7,705	-3,550	-6,794	911	-11.8		—	—
投下資本 ^{※1}	百万円	50,484	56,484	63,156	61,663	59,366	60,978	61,554	62,714	62,714	59,041	60,407	-2,307	-3.7		—	—
運転資本 ^{※2}	百万円	23,632	26,161	27,868	26,260	25,547	24,743	26,222	24,000	24,000	24,130	23,268	-731	-3.0		—	—

※1 有利子負債(gross)と株主資本の合計

※2 売上債権+棚卸資産-仕入債務

4. ファクトシート 3/4

③財務指標等

金額表示単位未満は切捨

		2018/3期 FY2017	2019/3期 FY2018	2020/3期 FY2019	2021/3期 FY2020	2022/3期 FY2021					2023/3期 FY2022						
		通期 実績	通期 実績	通期 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q ^{※7} 実績		2Q累計 実績		2Q累計 計画	通期 計画
期末発行済株式数(自己株式含む)	千株	90,419	90,419	85,419	85,419	85,419	85,419	85,419	85,419	85,419	85,419	82,919		－		－	－
期末自己株式数 ^{※1}	千株	10,005	10,005	5,165	5,050	5,020	4,999	4,999	5,500	5,500	7,453	4,999		－		－	－
期中平均株式数(自己株式除く) ^{※2}	千株	75,914	80,414	80,251	80,322	80,384	80,402	80,408	80,367	80,367	78,704	77,920		－		－	－
EPS(1株当たり当期純利益) ^{※3}	円	98.51	96.05	96.55	24.91	21.18	23.49	24.01	24.44	93.13	24.73	22.54		47.26		40.74	93.06
BPS(1株当たり純資産)	円	510.81	578.01	640.54	638.36	613.53	638.10	660.71	682.79	682.79	662.57	687.73		－		－	－
DPS(1株当たり配当金)	円	28.75	29.00	29.00	49.00	－	－	－	38.00	38.00	－	－		－		0.00	38.00
Payout Ratio(配当性向)	%	29.2	30.2	30.0	196.7	－	－	－	－	40.8	－	－		－		－	40.8
ROE(自己資本当期純利益率)	%	24.2	17.6	15.8	3.9	－	－	－	－	14.1	－	－		－		－	－
ROA(総資産経常利益率)	%	21.2	16.8	14.6	14.2	－	－	－	－	13.7	－	－		－		－	－
ROIC ^{※4} (投下資本利益率)	%	14.7	12.9	11.5	11.7	－	－	－	－	11.0	－	－		－		－	－
自己資本比率	%	67.4	68.6	68.5	70.3	70.8	70.7	75.1	74.5	74.5	74.9	75.1		－		－	－
売上債権回転期間	日	100.7	98.3	91.5	95.8	－	－	－	－	90.7	－	－		－		－	－
棚卸資産回転期間	日	276.9	316.0	285.1	275.7	－	－	－	－	248.6	－	－		－		－	－
仕入債務回転期間	日	47.7	55.3	58.0	56.1	－	－	－	－	49.7	－	－		－		－	－
Cash Conversion Cycle	日	329.8	358.9	318.6	315.4	－	－	－	－	289.7	－	－		－		－	－
連結従業員数	人	906	932	1,074	1,167	－	－	－	－	1,205	－	－		－		－	1,276

※1 役員報酬BIP信託が保有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン（E-Ship）に関して信託が保有する当社株式は自己株式に含まれる。（E-Shipは2021/7/29に終了）

※2 各Qの値は累計期間での値

※3 分割考慮後のEPS。2018/1に1:2の株式分割が行われています。これを踏まえ、2018/3期のEPSは、前期の期首で株式分割が行われたと仮定して算出しています

※4 分母の利益は税引後営業利益。税引後営業利益＝営業利益×(1-実効税率(30.62%))

※7 自己株式の消却：2019/5 500万株、2022/7 250万株

4. ファクトシート 4/4

④品目別売上高

金額表示単位未満は切捨

		2018/3期 FY2017	2019/3期 FY2018	2020/3期 FY2019	2021/3期 FY2020	2022/3期 FY2021					2023/3期 FY2022								
		通期 実績	通期 実績	通期 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	YoY %		2Q累計 実績	YoY %		2Q累計 計画	通期 計画
PM関連	百万円	6,463	5,169	5,682	5,996	1,520	1,495	1,570	1,275	5,862	1,269	1,261	-233	-15.6	2,530	-485	-16.1	-	5,215
ICD関連	百万円	584	496	5,960	7,001	1,706	1,687	1,739	1,651	6,785	1,742	1,853	165	9.8	3,595	201	5.9	-	6,959
その他	百万円	200	196	223	250	92	74	85	77	329	83	84	10	13.8	167	1	0.7	-	370
リズムデバイス 計	百万円	7,247	5,862	11,866	13,248	3,320	3,257	3,395	3,004	12,977	3,094	3,199	-57	-1.8	6,293	-283	-4.3	-	12,546
EPカテーテル	百万円	15,354	17,028	17,915	17,314	4,502	4,471	4,915	4,522	18,412	4,967	4,813	342	7.7	9,780	806	9.0	-	18,963
ABLカテーテル	百万円	1,161	1,369	1,421	1,047	273	283	375	299	1,232	321	174	-108	-38.4	496	-60	-10.9	-	2,200
その他	百万円	3,848	4,662	5,358	5,501	1,435	1,366	1,406	1,247	5,455	1,374	1,360	-5	-0.4	2,735	-66	-2.4	-	5,441
EP/アブレーション 計	百万円	20,364	23,060	24,696	23,863	6,211	6,120	6,697	6,070	25,099	6,662	6,349	228	3.7	13,012	679	5.5	-	26,605
人工弁	百万円	1,742	1,448	259	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
人工血管関連	百万円	8,482	9,133	8,879	9,039	2,150	2,072	2,672	2,475	9,370	2,499	2,338	265	12.8	4,837	614	14.6	-	9,877
血液浄化関連	百万円	1,131	1,070	994	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	百万円	106	77	32	929	39	146	78	21	286	36	48	-97	-66.7	85	-101	-54.3	-	142
外科関連 計	百万円	11,464	11,730	10,166	9,969	2,190	2,219	2,751	2,497	9,657	2,535	2,387	168	7.6	4,922	513	11.6	-	10,020
消化器関連	百万円	28	107	132	247	87	99	124	136	448	134	150	51	51.2	285	98	52.3	-	591
PI関連	百万円	3,193	4,765	4,900	3,957	802	820	911	750	3,285	541	433	-387	-47.2	974	-648	-40.0	-	1,763
消化器/PI ^{※1} 計	百万円	3,221	4,872	5,032	4,204	890	920	1,035	887	3,733	676	583	-336	-36.6	1,260	-550	-30.4	-	2,354
連結売上高	百万円	42,298	45,525	51,761	51,286	12,612	12,518	13,879	12,459	51,469	12,969	12,519	1	0.0	25,489	358	1.4	-	51,527

※1 2023/3期1Qより、「インターベンション」から「消化器/PI」に改称しています。

5. 開発生産拠点

✓ 国内 4 拠点、海外 2 拠点の体制でメーカー機能を支える

研究開発

研究開発統括部 (埼玉県戸田市)

Medical Technology Park North Square



2018/4～

中核工場

戸田ファクトリー (埼玉県戸田市)

Medical Technology Park South Square



2012/1～

量産・滅菌工場

小山ファクトリー (栃木県小山市)



2014/10～

血管製品の開発・生産

市原ファクトリー (千葉県市原市)



2011/1～

海外工場 ①

深圳工場 (中国深圳市) JLL Shenzhen Co., Ltd.



2010/10～

海外工場 ②

マレーシア工場 (マレーシアペナン州) JLL Malaysia Sdn.Bhd.



2020/6～

6. 会社概要

商 号	日本ライフライン株式会社
代 表 者	代表取締役社長 鈴木啓介
本 社	東京都品川区東品川2-2-20 天王洲オーシャンスクエア
設 立	1981年2月6日
上 場 市 場	東京証券取引所 プライム市場
証 券 コ ー ド	7575
事 業 内 容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資 本 金	2,115百万円
決 算 期	3月31日
従 業 員 数	連結1,205名/単体981名（2022年9月30日 現在）
事 業 所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、天王洲ACCADEMIA（研修センター）（2022年9月30日 現在）
連 結 子 会 社	SYNEXMED (HONGKONG) LTD.、心宜医疗器械（深圳）有限公司 JLL MALAYSIA SDN. BHD.

ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、当社の将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品の導入に係る、治験および薬事承認に係る事項、また発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部

TEL:03-6711-5214

E-Mail:ir@jll.co.jp

URL:<https://www.jll.co.jp>